

# マツダ新報

## 目次

第十四卷

第十一號

正しい電燈の使い方.....	2—7
赤外線及紫外線の應用と其の透過硝子.....	8—10
電 氣 販 賣 員 (二).....	11—15
安全なる電氣ストーブ.....	16—17
新發賣御披露 (ネオンランプ檢電器).....	18—20
進み行くラヂオ.....	21—22
照明學校だより.....	23
世界に於ける照明のいろいろ(寫眞).....	24—25
マツダ新報八月號を讀みて.....	26—27
東京市主催納涼會電氣設備に就て.....	28—34
日比谷公園納涼會に遊びて.....	35—37
ギバ體溫計に關する懸賞文藝小品入選發表.....	38—41
米 國 だ よ り	
初秋のアトランチック、シテイー.....	42—44
卓 上 電 燈.....	45—47
編輯後記に代へて.....	48



## 正しい電燈の使ひ方

皆様大變氣持の良い季節になりました。此良い季節に當つて電燈に就て何かお話をして貰ひたいと云ふ放送局からの御注文でありましたが、是ぞと云ふ程のお耳新しい材料も持合せがありませぬので、お断りしやうと一旦考へましたが、併しよく考へますと、

ラヂオをお聴きになる皆様は私共電燈商賣に携つて居る者から見れば、何れもお得意様であり、此御得意様とお近附になることの出来る機會を與へて戴きますことは洵に結構なことであり、又例ひ斯うしてでもお近づきになるやうに務めることが、お得意様に對する私共の務であると考へまして、今日此マイクロフォンの前に立つた次第であります。

電燈商賣の方から申上げると、近頃家庭の電化とか、電熱の普及とか云ふやうなやかましい問題が色々ありますが、私の今日のお話は斯う云ふ方面のことではなく、現在どちらの御家庭でも毎日電氣をお使になる上に於て、お心得にもならうかと思はれますことを二三申上げたいと思ひます。

先づ第一に申上げたいと思ひますことは、東京では現在一般の御家庭に對し、夜晝の區別なく電氣を送ることを原則とし、さうして其料金はメートル制を本位にして居ると云ふことであります。此やうなことは歐羅巴や亞米利加の都會ではずつと前から行はれて居りま

すが、東京では一昨年から始めた許りであります。日本の他の都會では斯う云ふことはまだありません。此點に於ては日本中で東京が一番進んで居ると申して差支ないのであります。東京で此様に致しました趣意は一般の家庭の爲に、一層の便利をお圖りしやうと云ふのに外ならないのであります。電燈だけにしても夜晝の別なく何時でも使へるやうになつて居る方が御便利であることは申す迄もありますまい。更に電氣の利用の途が開けてまして、電燈以外の電氣アイロン、其他の電熱器、扇風機、電氣掃除器、電氣ポンプ、醫療用の電氣器具と云ふやうな、家庭用乃至職業用の便利な電氣器具が廣く使はれるやうになる機運のあることを考へましては、今迄のやうな遣り方では到底一般の御家庭の満足を買ふことは出来ないと思つて、斷然此やうに制度を改めたのであります。

此やうに電氣が瓦斯や水道と同じやうに夜晝の區別なく何時でも使へると云ふことは、お使になる方に取つて非常に御便利であると存じます。斯うなれば寒中でも扇風機が使へます。寒中には扇風機を使ふと申上げると洵に異様に聞えるかも知れませぬが、是は私が亞米利加に旅行中、實際に目撃した事實であります。或る所で寒中扇風機を使つてショウウインドーの硝子の面の中を煽つて居るのを見ました。是は部屋の内の水蒸氣が冷い硝子の面に凍り付いて硝子を通透

東京市電氣局  
電燈課長 小川 榮次郎

明にするのを防ぐためであつたのであります。扇風機と言へば暑中に人の身體を煽ぐものと許り心得て居りました私は、成程扇風機にも變つた使ひ方があるものと思ひ、さうするにはどうしても晝間電氣が使へるやうになつて居なければいけないと、つくづく感心したのであります。是は極めて極端な例であります、兎に角晝間でも電氣が使へると云ふことは、御家庭に取つて便利なのに相違ないと思ひます。都會で電燈にお慣れになつたお方が電氣のない、田舎に行かれた時には不便を感じられることでありませうが、晝間も電氣が使へるやうな所に住んで居られる方が、晝間電氣の使へない所に行かれたならば、同様に不便を感じられるやうな時節が、追ひ／＼遣つて來るのではないかと考へられます。此のやうに一般の御家庭に晝間の區別なく電氣を送ることにしたに就ては、電燈業者の方では少からぬ犠牲を拂ひ、又苦心も致して居るのであります。晝間電力の無駄が可なり多く起ることや、外燈などの爲に線路の設備を二重にしなければならぬことや、其他色々の點に就て以前よりも一層の苦心をして居ります。

料金をメートル制としたことは、電燈なり其他の電氣器具なりをお使になる上に於て、定額制よりも一層便利であり、又電氣の取引が一層合理的になると心得たからであります、此點は瓦斯や水道なども、何れもメートル制を本位として居のを見ましても當然のことと存じます。此やうに現在東京では一般に晝夜不斷の送電をすることを原則として居ること、さうして是は皆様御家庭の御便利を圖らうとする爲めであること、又それが爲に電燈業者としては、以前よりも一層勉強して居ること、是等の點に就ては充分理解して戴きた

いと思ひますと共に、お役に立つ範圍内では充分之を利用して戴きたいと考へます。

次に第二として申上げたいと思ひますことは、電氣をお使になる上に就ての呼吸に附てであります。それは電氣が必要な時は遠慮なくお使ひを願ふ代りに、決して無駄使ひをなさらぬやう御用心なされたいと云ふことであります。電氣をメートルでお使ひになる時には定額でお使になる時のやうに窮屈にお考になる必要はないのであります。同じ料金をお拂ひになるとして、メートルであつたならば使ひやうに依つては、定額の時に較べて二倍以上の燈火の數が使へるのが普通でありますから、燈火の數の多いことは餘り苦になさる必要はありません。燈火の必要のある場合には、例ひそれを時々しか使はないやうな場所でも、それ／＼電燈の設備をして置くのが宜しいと考へます。一つの電燈をあちらこちらと引張り廻すやうな必要はないのであります。電燈以外のもの、例へば電氣アイロンとか扇風機のやうなものにしても、本當に御便利なものであつたならば、御自由にお使になるのが宜しいと思ひます。電燈の料金は動力の料金に較べると非常に高いやうであります、實際には見掛けに違はないのであります。それは電燈一燈當りにして一箇月の料金四十錢を超過する部分は、動力料金と同様になつて居るからであります。即ち一燈當りにして一箇月四十錢になる迄は電燈料金の方が高いが、それから上は動力料金と全く同様になつて居るからであります。若し本當に効能のある使ひ途でありましたならば、自由に御便利に電氣をお使になるのに遠慮する必要はないと思ひます。併し其反對に効能のない使ひ方、即ち無駄使ひは決してなさらぬやうに御注意が肝



要であります。部屋を留守にする間電燈を點け放しにしたり、家の外の電燈をまだ暗くならない中から點け始め、夜が明けてからも點けて置くと云ふ事を往々見受けますが、是は電燈の間違つた使ひ方であると思ひます。又便所の電燈を晝間消すのを忘れる様なことも往々あります。是等も御注意が肝要であります。電燈のスイッチの點滅はそれ程手数なものではありませんねから、或るべく頻繁にスイッチをお使になることをお勧め致します。此スイッチの點滅が五月蠅いとか、或はメートルでは無暗に料金が嵩張ると、お考になる方であると致しますれば、それは大變間違つた考をお持ちになつてゐる方であると申上げて差支ないのであります。又外國の例を引合に出して恐れ入りますが、歐米人には此點を充分に理解して居るものが多いやうであります。部屋に居る間は部屋にありつたけの電燈を點けて置いて少しも苦にしない癖に、例ひ十分間でも留守の部屋に電燈を點け放しにして置くのを非常にやかましく言ひます。はたから見ると、けちん坊に見える位に無駄使ひを苦にして居ります。是は單に電氣料の嵩むのを恐れるのではなく、寧ろ自分の欲せざるもの、若くは用のない所に金を使ふのは莫迦なことであると云ふ考から來て居るやうに見受けます。是は獨り電氣の場合に限つたことではありますまいが、今東京のやうな制度の所で電氣をお使になる場合には、此呼吸が是非必要であると考へます。

次に第三と致しまして電球に就て少しく申上げます。現今普通に用ひられて居る電球は、殆ど總てタングステン電球と云ふものであります。之には普通のタングステン電球、即ち真空電球と、瓦斯入電球との二種類があります。真空電球は硝子球の中の空氣を抜き去

つて眞空にし、芯線は細い儘懸けてあります。瓦斯入電球は硝子球の内部の空氣を抜いて、代りに特殊の瓦斯體を入れてあり、芯線は太く短く見えるやうに懸けてあります。瓦斯入電球の方が一層進歩したもので、同じ電力でも餘計な光を出すことが出來ますが、熱度の高いこと、芯線がギラ／＼光ること、が缺點であります。今迄は五十燭光位から上のものしか作れなかつたのでありますが、近頃は十燭光位のもの迄作れるやうになりました。是等の電球に就ての最近の進歩は、硝子球の先の尖つた所がなくなつて圓頭になつたこと、硝子球の内側に艶消を施すことが出来るやうになつたこと、であります。電球の硝子球の先の尖つた部分は、人間の身體で言へば、丁度臍のやうなものであります。電球が出來上る迄は必要であつたのであります。出來上つてしまへば無用の長物であります。是は硝子球から空氣を抜く時の抜け口の跡で、己むを得ず残つて居つたのであります。是がある爲に運搬中に電球の破損することが多かつたり、或は人が電球に頭を打ちつけて、怪我をするやうなことがあつたりして、邪魔物であつたのであります。併し電球の製作が進歩して今度のは外の所から空氣を抜くやうにした爲に、今では此先の尖つた部分を置く必要はなくなり、電球は圓頭になつたのであります。是も電球製作上の近頃の一つの進歩であります。電球の艶消は今迄硝子球の外の面に施して居つたのであります。此艶消では光の吸はれ方、即ち吸収が割合に多いこと、電球の面が汚れた場合に之を掃除し難いことなどの缺點があつたのであります。それが極く最近では硝子球の内側に艶消をすることが出来るやうになつたのであります。斯うなりますと、光の吸収も非常に少くなり、又球の面の汚れた場



合に掃除をすることも容易になつたのであります。是も確に電球製作上の一進歩に相違ありません。此光の吸収が少なければ、總ての電球に艶消をするのが宜いやうであります。即ち艶消をすると中の芯線のギラ／＼する度合が減じて柔い光を出すやうになり、眼の爲に宜しい。此ことは瓦斯入電球に取つて殊に著しいと考へられます。是

からは瓦斯入電球をお使になる場合には、内面全體を艶消にしたものをお使になるのが宜いと考へます。是は電球の進歩に就てではありませぬが、もう少し申上げて見たいと思ひます。電燈の光でものを見る時には太陽の光で見る時と較べて、其色合が大變違つて見えるものであります。ものゝ色合を電燈の光で見分ける必要のある場合には普通の電球では不適當であります。此やうな目的に適するやうに晝光色電球と名付けられた電球が使はれて居ります。是は青色の硝子を用いたもので、之を使ふと物の色合を夜でも相當はつきり見分けることが出來ます。普通の御家庭でも一つ位此種の電燈を御用意なさるのも便利かと存じます。夜お休になつてから後に、薄燈火を點けて置きたいと云ふやうな場合に、普通の電燈を布などで蔽ふて置くことは餘り感心しませぬ。近頃はグリムランプと申して薄紫の弱い色を出す電球が市場に現はれて居りますが、斯う云ふものを使ふのが適當であると思ひます。是は普通の五燭光電球の半分位の電力で足りませんから、少し位時間を長くお點けになつても、料金は割合に少くて済ませう。メートルでは電球は皆様の御隨意にお求を願ふことになつて居りますのは既に御承知のことと思ひますが、電球をお求になるには一流の電球の方が、例ひ値段は少し位高くても、電力や光力や壽命などの點に就て、當り外れが少いからお徳用

である場合が多いやうであります。併し頻繁に毀されたり、或は盜まれたりするやうな所に使ふものや、臨時にお使になるやうな場合には、安い電球の方が宜いのではないかと考へられます。又四十燭光位から上の電球としては、タングステン真空電球よりは、瓦斯入電球の方がお徳用であると考へます。

次に第四と致しまして電球の取附方に就て申上げます。例へば八疊の部屋に何燭光の電球を點けるのが、適當かと云ふやうな御質問があつたとしても、簡單にはお答が出來ないのであります。それは例ひ同一燭光の電球を使ふと致しまして、天井、壁、さう云ふものゝ彩りや電燈の高さや、笠などの如何に依つては下の方の明るさが可なり違ひますし、又必要な明るさは同じ部屋であつても時に依つて、變るものであるからであります。假に天井や壁の色や又電燈の高さの方は問題でないとしても、笠の方は非常に問題になります。即ち笠の適、不適に依つては電氣の使ひ方に可なりの影響があります。笠は外見上其部屋と能く調和するやうなもので、なければならぬことは勿論であります。それよりも大切なことは出来るだけ電球を蔽ふて人の眼に目映めばさを感じしめないこと、それから電球から出る光の中で上の方に向ふものを下の方に向はせることであります。それ故相當に反射の好いもので造り、さうして適當な形を持つて居なければなりません。一般に浅い平い笠は廣く照す代りに下の方の明るさが小さくなります。深い笠は狭く照す代りに、下の方の明るさは大きくなります。普通の場合には照すべき場面は主に其部屋の床の面でありますから、電球から出る光の主な部分が床の面上に落ちる位な笠を用ひることが、適當と云ふことになるのであり



ます。電燈の笠と言へば昔から皿のやうな形をした、浅いものが最も多く使はれて居るやうであります。電球の方はすん／＼進歩して行きますけれども、笠だけは依然として昔の儘に取残されたものが少からず今でも使はれて居るやうであります。此笠は十六燭光位置の小さい電球には間に合いますが、それ以上のものには不適當であります。電球も大きいもの、殊に瓦斯入電球が多く用ひられるやうになつた今日に於ては、丁度大人が子供の着物を着た時のやうに不釣合も甚しいものであります。百燭光の電球に舊式の皿形の笠を用ひて居るのを見掛けますが、随分間違つた電燈の使ひ方であると思ひます。大人には矢張大人の着物を着せて遣るべきであります。

是は多くの場合電燈の設備を電燈業者の方で、損料賃すると云ふのが日本の一般の習慣であります爲に、斯うなつて居ることと思ひますが、等位のものはお使になる方で適當なものを、お求になるのが當然ではないかと考へます。部屋明るさは必要に應じて、變へられるやうになつて居る事が望ましいと考へます。斯うするのに一々電球を挿し變へる事は厄介でありますから、出来るならば一つの部屋に二つ以上の電燈を取附けて置いて、其點滅に依つて明るさを変へたいと存じます。大きい部屋や西洋間などは斯うした方が宜いと考へますが、一般の日本間では色々の點からさうは行かない場合が多からうと思ひます。此やうな場合に明るさを變へるのに一々電球を挿し變へるのは已むを得ないとしても、スタンド即ち燭臺——さう云ふものが使へる程にはして置きたいと思ひます。部屋の片隅で仕事をするやうな場合、例へば机の上で本を読むと云ふやうな場合には、スタンドを用ひる方が電力の節約にもなり、気分も落附いて

便利であります。スタンドを取附けるにしても専用の挿込み口を壁なり柱なりに設ける方が、宜いと考へますが、併し已むを得ず普通の電燈の口で、取附けなければならぬ場合が多からうと考へます。此やうに致しますのも普通の電燈の電球を外して、スタンドの紐線の端をソケットに挿込むのは厄介でありますから、笠の上の所に挿し込むだけで足りるやうなものを使ふのが便利でありませう。是はスタンドのみならず、電氣アイロンのやうな物を、お使になる場合も同様であります。スタンドは必しも値段の高いもの許りではありませんぬから、御家庭に一つ位お使になるのも無駄ではないと思ひます。近頃はスタンドとして脊の高いもの、人の丈よりも高いものが市場に現はれて参りましたが、是は亞米利加邊りの流行から來たものでありませう。西洋間などには相應しい場合があらうと考へます。化粧室のやうな所には少くとも二つの燈火が欲しいと思ひます。さうして一つは壁又は柱に取附けるか、それが出来ない場合にはスタンドの方でお使になるのが宜いかと考へます。商店などの店頭で電燈の間違つた、使ひ方をして居るのを少からず見受けまゝす。それはあのギラ／＼する瓦斯入電球を、裸の儘に附けて置くこととあります。是は其お店に取つても損である許りでなく、店頭を通る人に非常に不快な感じを起させるものであります。此やうに電燈を點けるのは店を明るくして商品の良く見えるやうにし、さうしてお客を呼ばうとされるのであることは、言ふ迄もありませぬが、結果は之に反するのであります。あのやうにギラ／＼する電燈を鼻先にぶら下げられては却て商品が見え難くなります。又店頭を通る人には強い目映メカシさを感じしめて、店から目を背けさせることになり



ます。同じ電氣料をお拂になるならば、もつと効能の多い電燈の使い方が幾らもありませう。是は最も下手な電燈の使ひ方であると申し上げて差支ありません。是は少くとも位置を變へるか、或は適當な笠を用ひて戴きたいと思ひます。此ことは東京の通りで少からず見受けます。此點に就ては商店の方々に御一考を煩したいと考へます。外燈などのグローブ（外の硝子のほや）之を使ふ第一の目的は電球のギラ／＼するのを防がうと云ふのでありますが、硝子の質に依つては例ひ此目的は、同様に達することが出来るとしても、光の吸収が非常に違ふものがあります。悪い硝子では電球の光の五割以上も吸収するものがあります。好いものならば此光の吸収が二割位で済みます。好い品物の方が値段が相當に高いのが普通であります。光の經濟の點から申せば少し位値段が高くて好い品物をお使になつた方が長い間には結局お徳用になる場合が多いのであります。

序に電燈の掃除のことを一寸申上げますが、電球や笠やグローブなどは埃や蟲などの爲に汚れ勝ちなものであります。是は不體裁である許りでなく、光を吸収して電燈の能率を悪くするものでありますから、常に掃除を怠らないやうにする必要があります。掃除に手間を掛けても光力の回復に依つて得をする方が多いのでありますから、どうぞそれらを可愛がつて面倒を見て遣つて戴きたいと思ひます。試に今日お宅の電燈の笠の上なり、電燈グローブの中なりを一應お改めを願ひたいと思ひます。

最後に皆様にお願致したいことがあります。先程も申上げた通り東京では夜晝の區別なく、送電するのを原則として居るとは申しな

がら、殆ど今迄の供給設備其儘を以て之を始めたのでありまして、設備の上に於ても取扱の上に於ても、不充分であり不徹底であり、充分御満足を買ひ得ない點があることも存じますが、何分にも只今は過渡期でありますが故に、尚ほ暫く大目に見て戴きたいと考へます。今問題になりますのは屋外の燈火であります。此屋外燈に就ても將來は矢張メートルでお使を願ふのを、原則にしたいと云ふ希望を持つて居ります。併しまだ從來の燈火、即ち街燈の設備、さう云ふものが行渡つて居りませぬから、一概にさうすることは困難だと思ひます。私共の立場から行きまして、往來の燈火を本式のものにしたい、是は道路の管理者の方にお願をして早く相當の街燈を點けたいと考へて居りますが、其街燈が行渡る間は例ひメートルで屋外燈をお使になるとしても、夜中過ぎも矢張それを點けて戴くやうに、もう暫くの間御辛抱を願ひたいと思ひます。尚ほ晝間屋外燈が點く場合にそれがメートルであつても、定額であつてもお手數ながら晝間はお消になる、さう云ふことを務めて遣つて戴きたいと思ひます。是は此機會に特に希望して置く次第であります。私の話は是で終ります。

（大正十五年九月二十八日）  
（東京放送局に於ける放送講話）

### 人工照明と眩輝の防止

英紙 Yorkshire Herald は近頃約一段を費して、人工照明に於ける眩輝の問題を論じて居たが、これを見ても英國人士の照明に對する態度が知られる。同紙は特に工場、病院、學校及び事務所等に於て、眩輝の惹き起す不利をあげ、内面艶消電球は眩輝の防止と光の擴散との二目的に對する、最近の賞讃すべき發達であると論じて居る。



# 赤外線及紫外線の應用と其の透過硝子

寫眞界の大發明、暗中の秘密通信

東京電氣株式會社  
研究 究 所

佐 藤 正 文

## (一) 赤外線の應用

頃日の新聞紙上に「素晴らしい寫眞界の大發明」と云ふ見出しで、下志津飛行學校寫眞部の丹羽中佐が赤外線應用の寫眞撮影に成功せられた事を報ぜられました。

「同中佐は豫てから飛行機上より眼の届かぬ距離の撮影を思ひ立ち、以來研究中であつたが最近の實驗に依つて完全に成功した、同試験は寫眞機のレンズの前に特殊の裝置を有する濾光板を取附け、其に依つて普通の光線並びに紫外線を遮り、肉眼に見えざる赤外線(紫外線の反對にあるもの)を過して、之を感板に感光せしむる事に依つて寫すのである、從來飛行機上三千米以上の高空からは地上を寫す事が不可能で、殊に雨や、濃霧の場合は絶対に困難とされて居たが、赤外線を利用すれば濃霧大雨の場合は勿論、日没後でも多少太陽の光線が残つて居る時は撮影する事が出来、雲若しくは霧を通して完全に撮影され、平常に於ては五萬米(約十二三哩)のところから完全に撮る事が出来ると云ふ大發明で、世界各國でも未だ之の研究は成功して居ないので、軍事上は勿論、一般科學界に大革命をもたらすものと觀られて居る」と云ふのであります。

元來物體から反射する光線は、厚い大氣層を通過して居る間に、空中に浮遊する微細な粉塵や水滴のために屈折分散せられて、その

光が直進する事が出来ぬため、その物體が吾人の眼に見えないので、之の分散率は波長の短かい色光程大きいものであります。

然し肉眼に見えない波長の長いもの、即ち赤外線はかなり厚い大氣層でも直進する事が出来るものでありますから、之の赤外光で寫眞を撮れば遠方のものが寫るわけであります。

通常の寫眞感板をクリプトアニン屬の染料で染色し、波長七〇〇〇以下の色光を吸収する濾光板を併用して寫眞を撮ると、五里位迄の遠方のものが、かなり明瞭に寫る事は已に知られて居るのであります。が、丹羽中佐の完成せられたのは十二三里迄撮り得ると申しますから、之れよりはるかに優れて居る事は申す迄もない事と存じます、かゝる大發明が我國で完成された事は、御互に同慶の至りと存じます。

又之の方法を應用して活動寫眞を撮りますと、天空は暗黒に寫り、樹木の綠葉は明るく寫ります、よつて晝間撮影したものが、殆ど夜間撮影のものと同一となるので、従つて從來巨費を投じて撮影して居ります戸外の夜間撮影活動寫眞も、ホンの僅かの費用で出来るわけであります。

又火星などもこの撮影寫眞に依つて、從來知られなかつた新事實が續々發見されるらしいと云ふ事であります。



さすれば赤外線應用の完成は軍事上は勿論、天文學上測地學上或は又キネマ界等影響する所はけだし少くないものであります。

## (二) 紫外線の應用

或る物質に光が當れば、自から或る種の光を發し得るものがありまして、之の現象を螢光と云つて居ります。

紫外線を之に應用すると暗中に秘密通信を行ふ事が出來ます、例へばシアン化白金バリウムで作つた螢光板に、紫外線の濾光板を使用して、紫外線のみを照射して螢光を發せしめるのであります。之は歐洲戰爭に利用されて相當効果があつたと云ふ事です。

紫外線による螢光の利用は近來又贋造物の鑑識にも應用される様になりました、即ち發せられる螢光の色とか、強さとかは各物質によつて皆異つて居るので、可視光線に依つて肉眼で見た時は、全く外觀が似たものでも、紫外線の照射に依つて發する螢光は、強さ或は其の色度が違ふものであります。

例へば天然眞珠と養殖眞珠、天然ルビーと人造ルビー、天然絹糸と人造絹糸、或は紙幣有價證券等印刷物の贋造物など、其紫外線に對する各特性が異つてをる故、容易に鑑別する事が出來るのであります。之の方法に依ればどんな上手に贋造したものも、直に化けの皮を表はされるので、贋札の横行など速かに防ぎ得るのであります。

之の外紫外線が醫療上に特効ある事は、已に廣く知られて居る事で石英水銀弧光燈（キバ太陽燈）がX線管球同様、醫局から近來著しく要求される數が増加した事に依つてもうなづかれる事實で、尙又殺菌用褪色試驗用にも應用せらるゝ外、最近養鶏、園藝に應用され良成績をあげて居るとの事で、目下千葉の農事試験所では之の試

驗中の由を承つて居ります。

## (三) 濾光用硝子

以上の様に赤外線、紫外線の應用が盛になりますに従つて、之等の濾光用硝子の研究は最も大切な事であります。

吾研究所でも數年來不破副長指導のもとに、之の濾光用硝子の研究をして居りまして、海軍技術本部、陸軍科學研究所の依頼もあり現在では相當のものを製作して居ります。

赤外線、濾光板と申しますと、紫外線及可視線を全部吸収せしめて、赤外線のみをより多く通過し得る硝子、云ひ換へますと赤外線に對する透明硝子でありまして、紫外線、可視光線を充分吸収するものを作るは比較的容易であります、之にとりなつて赤外線を幾分を吸収するので、如何にせば赤外線を多くを通過せしめ得るかが苦心を要する點であります。

現在普通に使用されて居る硝子の成分は、加里鉛硝子でありまして、着色劑としてマンガン、クロム等を加へて居ります。

次に紫外線の濾光板は、赤外線は勿論、可視光線を完全に吸収して、紫外線をより多く通過せしめ得る硝子を要求するのであります、可視光線を完全に吸収せしめると紫外線も亦、可成犠牲となるのであります。又紫外線を多く通過せしめ様とすると、かなり光線が出るのであります、各國共軍事上に大關係がありますから、競つて秘密に研究されて居ります。

普通に知られて居る硝子の成分は、曹達バリウム硝子にニッケルを加えたものであります、不純物として鐵分を極端に忌みます、然し我國産の原料は何れも之の鐵分の混入が多く、諸外國に比して、



之の點が惠まれて居ないので、吾等製作に従事するものはかなりの困難を感じて居ります。

#### (四) 強光線用保護眼鏡

尙是等の強光線を使用するに當りましては、過大なる熱線のため或は又紫外線の特殊の作用のため、眼に障害を起し易いものであります、従つて之等の保護眼鏡が必要であります。従来はコバルト硝子を使用して居りましたが、餘り有効ではありません、クルツクス硝子は保護眼鏡用硝子として、世界でも有名なものであります、我研究所の不破副長も已に之の研究をせられて發表されて居ります(大日本窯業協會誌昭和二年七月號)今其の概論を再録しまして私しの之の文を了ります。

(一) 市販の保護硝子の成分は曹達石灰硝子を基礎硝子として、之れに種々なる着色をなしたるもので、クルツクスB及びゼルAには少量のセリアを含んで居る、従つて紫外線を相當吸収するが、ブリューA、B及びCは紫外線防止の目的には適しない。

(二) セリア、ウラン、酸化鐵或は酸化クロムを含む硝子は紫外線をよく遮斷す、従つて保護眼鏡用として紫外線を遮斷する目的には、以上のものゝ相當量を硝子に加へればよい、其の硝子の着色には適當なる着色劑を加へて、任意に變化せしむる事が出来る。

(三) セリヤは硝子に殆ど着色せず、ウランは硝子を黄色にし其の加へたる硝子の素地、如何によりては強き螢光を生ずるものを得、酸化鐵は黄色より綠色又は青色の硝子を生じ、酸化クロムは硝子に黄綠色をつける。

(四) 無色に近きもので可視光線に對して、透過率大きくしかも紫

外線をよく吸収される硝子を製作するためには、セリアの相當量を加えて目的を達する事が出来る。

(五) 着色濃き綠色を呈するも、安價なる紫外線遮斷用硝子の製作には酸化鐵を加へたるもの良し。

(六) 保護眼鏡用硝子の製作の着色、可視光線の透過率及び紫外線の透過率等は、前記の酸化物及び其の他の着色劑の割合を考慮に置いて、目的に適するものを製作する事が出来る。

(以 上)

#### 紫 外 線 と 眼 鏡

太陽から放射される光線のうちには、可視光線の外、紫外線、赤外線も含まれてをります。

紫外線のうちで我々の眼に障礙を來たすものは、三二四〇アングストロームよりも波長の短かい所謂短波紫外線であります。處が太陽から放射される紫外線の中で、波長の短かいものは地球に達する迄に大部分大氣中で吸収されてしまひ、此の地上に到達するものは比較的波長の長いものゝみであります。紫外線を出す特別な裝置をあつかふ以外に、よく紫外線除けの眼鏡を用ひてをる人を見受けますが、かゝる眼鏡を日常用ひてをりますと、紫外線に對する抵抗が弱くなつて、かへつてよろしくありません。太陽から來る光線中には眼鏡をかけなくてもよろしいだけの、我々の眼には準備があるわけであります。



## 電 氣 販 賣 員

(二)

東京電氣株式會社  
大阪出張所長 石 川 安 太

## 第二章 販賣員の要素

## 十 二 約 條

本章の目的は、販賣作業に従事する人、即ち販賣員は如何なる要素を具備せねばならないかを研究し、尙各要素に就いて其價値を讀者の腦裡に浸み込ませるにある。

理想的な販賣員といふものは、勿論實在して居るものではない。然しながら優秀な販賣員に就いて其素質を分解して見ると、各人に共通な多くの特長があり、而して販賣員として成功したのは、特にある點が發達して居り他の點は左程發達して居ない等の事が認められるものである。

從來販賣員として具備すべき要素に就いては種々なる方面から研究され、標準の如きものも色々と撰定されて居る。

販賣作業に成功するには、得意に對する己が主張が通り、而かも其得意をして己が主張に感服させ、信頼させる能力を有する事が最も必要である。人をして感服させ、信頼を得る爲めには、販賣員の個性に負ふ處が多いのであるから、左に掲ぐる各要素の開發を先づ第一に心懸けねばならない。

## 一、健康體なる事

## 二、正直にして信頼し得る人なる事

- 三、氣持ちよき外觀を有する事
- 四、氣持ちよき人格を具へ居る事
- 五、豊富なる知識を有する事
- 六、綿密なる事
- 七、勇氣あり果斷に富む事
- 八、順應性を有する事
- 九、忠實なる事
- 十、創造力に富み、工夫好きなる事
- 十一、常に喜んで事に當る事
- 十二、熱心にして向上心に富む事

## 第一項 健康體なる事

## 他の十一約條の基礎

如何なる成功も健康を第一要件とせずしては得られない。健康は販賣員十二約條の基礎である。電氣事業に關與するものは、根氣よく耐え忍ぶ事を要求されて居るが、病弱者には到底これを望む事が出来ない。病弱者の面貌は、接する人をして何となく淋しい感じを與へる。其動作は活氣に乏しい。生來虚弱な者は、性質が偏狹で爲す事が常規を逸して居る事が多い。病源に依り差あるも慨して過鈍であるか又は過敏である。前者は爲す事粗雑にして秩序を缺き、己れ



を持する事淺く、責任感に乏しい。後者は小事に拘泥して執念深く大局を全たからしむる事殆ど不可能である。我々は友人間の挨拶に『元氣だね』とか又は『血色が好いね』といふ言葉をよく使うが、實際健康者は紅色の血が漲つて居り、潑刺たる元氣で、兩眼は愉快に輝やいて居る。眼は心の窓といふが、明晰なる頭腦の所有者は眼光に曇なく、人に接して壓力ある靈氣を發する。眞の健康者に非ざれば、斯の如き事能はざるのである。

### 誤まれる忠勤振

凡そ病氣は己れの不注意不攝生に起因して發するを通則とする。一旦病を得たならば、業務を退ぞいて専心靜養すべきか、或は病を押して業務を掌握すべきか、これは人に依つて議論のある事と思ふたゞ其人居らざるが爲め、滯滞して決する事能はず、止を得ず病を押して其仕事に従事するといふ實例は各處に散見する處で、而かも世人は彼の獻身的忠實振りを讃歎して居る。多くの例外は有らうが吾人は一方に於てこれを組織の缺陷と見做し度い。若し事務上の組織が、一病者の爲めに連帶的業務の一部に滯滞を來すようでは、決して現代的經營法に依るものとはいひ難い。斯の如き缺陷に對して、有爲の身命を賭するが如きは、寧ろ其人の愚昧なる盲從を憐み度いと思ふ。此の如き實例を龜鑑として一般に強ゆるが如きは、苟も人を使ふ道でない。又吾人は他方に於てこれを病弱者の通有性たる狹量片意地と見做し度い。上司の意中を憚り、己が業務の他人に奪はるゝを恐れ、殊更らに苦悶を訴へつゝ事務を執るが如きは、其人を中心としたる周圍の空氣を陰鬱にし、實に他迷惑の忠勤振りといふ

べきである。凡て病氣は、早き程治療容易にして、快癒する事速かである。勿論業務を休むは自己の損失たるのみならず、事業者の損失である。然れども數日の療養にて足るべきを若し病を押したる爲數月に抄らんには其損害更に數十倍するを忘れてはならない。寧ろ一簣を缺いて百年の功を全ふするに若かないのである。吾人が斯く賭易き理を説くは如上の例證に乏しからざるを憂うるからである。

### 運動家の戒め

近來運動家を重用する事盛んなるは、慶すべきであると思ふ。善良なる運動家は身心共に健全にして事に當つて敏捷緻密、根氣強くして殆ど倦む事を知らない。殊に一點の邪氣なく眞に愛すべき性格を有して居る。一般に團體的協力に馴れて居り、衆人環視の内に責任重き仕事をする經驗があるから、販賣員としては頗る適任である。殊に一流の運動家は三才の兒童にさへよく其名を知られて居るから、好感の獲得、持續を必要とする電氣事業には最も適はしい。

此の如く多くの特長ある運動家も未だ往々一部の識者からは遠ざけられて居るのは何故か。蓋し往時の運動家は、酒色と同一度の趣味を以て運動を嗜み、學術の方面は一切顧みず、従つて運動に熱中するもの程學力劣等であつた。性質概して粗野にして殆ど狂暴に近きものすらあり。上長に對する禮義とか命令に對する服従とかいふ様な事は念頭になく、意に適はざれば誰れ彼の差別なく腕力を以て黑白を決するといふ全く野獸に近い代物もあつた。

現時諸學校の運動家の養成方法は、頗る科學的になつたと共に人物の選擇にも注意を拂ふ様になつたが、然し今尙ほ所謂自稱運動家



中には、舊態を存して居る素質のものも珍らしくない。運動は大に奨励すべし。運動家は大に歡迎すべし。されど此の如き野獸性の發露は眞に戒むべきである。次に運動家に戒むべきは不節制を慎む事である。一般に彼等は自己の頑健を過信する爲めか、或は不注意の爲めか健康に就いて深い考慮を拂ふ事を怠る傾きがある。實に不節制な飲食で身を粗末に扱ふ様な人は、他に如何なる長所があつても成功は覺束ない。規則正しい善良な習慣は、明確な頭腦を持つ爲めに必要で、敏捷で正しい判斷力を養ふに缺くべからざるものである。

尙ほ序でに附記したい事がある。運動が漸く人氣興業物的に情する傾向が見えるが、これが當否は暫く措き、登場の闘士に藝人的惡質を醸生させたくない。藝人的惡質とは、己れより優秀なるものを妬み惡み、人の缺點失敗を見て喜び、己が練磨、努力に依つて頭角を現さん事を思はず、人を蹴落して我のみ甘き汁を吸はんとする類で、此の如きは多人數を包含する組織内にあつて共心同力し、事業の開發を計る爲めには極めて有害な鼠輩である。

### 酒は飲むべきか

販賣員は酒を飲むべきか。これに對する答へは簡單である。鞏固な自制心ある人は飲んでもよい。然らざる人は飲まぬ事、殊に酒亂癖の人は絶対に酒と縁を絶つべきである。

暴飲の健康に有害な事、生理的に及ぼす惡影響に就いては既に人の知る處で、適度の飲酒が保健上有効なるに拘らず酒を好愛するもの程節する事難く寧ろ絶対禁酒を主張するものが多い。

酒を飲むは酔はんが爲めである。酔ふて現社會の凡ての束縛や處世の苦痛疲勞を暫し忘れ、陶然として原始的性情の發露を楽しむのである。吾人は斯の如き現存の事實に對し漫りに可否を論じ度くない。然しながら現社會に生き、現世に處して束縛を感じ苦痛を感ずるは、少くとも現世の進歩と自己の進歩とが併行して居ない事を證する。これを評するにこれ以外の言葉を要しない。

緊要な商談を酒席に於て決する風習は今尙ほ存して居るが、悲しむべき事である。尤もこれに二様の方法がある。一は困難なるべき談判を、打ち解けた心持ちで話し合ふ爲めで、二は別席に於て商談を纏め、慰勞、祝賀の意味で酒宴を張るのである。前者は賣買關係に無理があるか、又は販賣員の手腕に十分でない處があるに起因する何れも現代の科學的販賣法とは逕庭がある。商談の完成に慰勞祝賀の宴を張るが如きは商賣の精神に誤解があるに起因する。

元來賣買契約は賣方、買方に利益の諒解があつて初めて成立するのである。賣方が利益を見て商品を賣り、買方が其商品の價值を知つて商品を買ふ。價值ある商品を求むるを得たる買方にも感謝の念はある筈である。斯くあらしむるのは現代の科學的販賣法である。

されば電氣の如く價值の公知に屬する商品を取扱ふ販賣員は、酒を飲む必要は更に認められない。寧ろ健康を持續して修養怠るなく、現世の進歩に伴ふて進歩するに努むべきである。

## 第二項 正直にして信頼し得る人なる事

### 自他に對して正直



販賣員は何等掛引なく絶對に正直なるを要する。己れに對して正直なる如く、他人に對しても正直であり度い。正直といふ事は最早や美德として賞め稱へる種類のものでなく、これは誰人にも絶對に必要な要素である。人は誰れでも善を喜び美を慕ふ。これ天性である。されば不義不善をなすは、己を偽き己を弄ぶものである。眞に自己を向上開發せんとする人は決して斯く自己を粗末に扱ふ筈がない。肉體上に缺陷ある人、即ち不健康なる人には、同情に値する見逃しや遣り損ないがある。然しながら道德上に缺陷ある人、即ち不正直な人は寛容の餘地を有せざる罪を作る。

### 虚言をいふ癖

人に依つては對談中に虚言や、物事を誇張してはいないと氣が済まないといふ癖の人がある。斯の如き人は概して話上手で、聞き手は、虚と知りつゝ遂釣り込まれてしまふ。而して其話が終ると大抵は、君の話だから五割位は掛値があるだろうと素かすと、決まつて實際だと答へる。かゝる習慣の人には幫間以外に適當な職業は見當らない。況や販賣員をやである。軽い笑談は勿論必要である。されど善良なる販賣員は笑談中にも虚言は吐かない事を心懸けて居る。虚言は假令相手者に損害を與へない性質のものでも避けるがよい。虚言は如何に些細のものでも自己の價値を夫れ丈け下落せしむるものである。

### 商業は正直らしき虚をいふ職業か

商業は正直らしき虚をいふ職業か、法螺ばかり吹いて世渡りをする人がある如く、虚や誇張した推奨をして商賣をやつて居るものも

あるのは事實である。殊に大道商人に此類が多い。然しながら決まつた顧客に連續した商賣をする場合には、虚言は極めて有害である。それが正直らしく述べられた虚言である程有害の程度も大である。電氣事業は正當な商品を、これが價値を十分諒解して居る顧客に販賣する職業である。此の如き商品を扱ふ販賣員は決して虚言を用ひたり、誇張した推奨などを爲すべきでない。

### 世に完全無缺のものなし

世の中に何等缺點のない完全なものは一つもないのである。又世の中に何等特長のない無價値なものは一つもないのである。人がものを買ふは、其商品の持つて居る價値が代金に適はしいから買うのである。販賣に従事する者は此處の道理を十分諒解する必要がある。徒らに缺點を隠し、特長を過大に吹聴して禍を將來に醸すが如きは戒しむべきである。

電氣は近代に於ける大發明の一つであり、利用の道も極めて廣汎であるが用途によつては可成り危険が伴ふ。燈火として使用の場合には他の光源に比し高價な事がある。又五百ワットの暖房は嚴寒に於て到底十疊以上の室を六十度に保つ事は困難である。たゞこれを賣るに當り正直に公平に電氣の利便、清潔等の特長を説き、顧客をして十分その價値を諒解せしむるに勉め、苟も一時を糊塗する虚偽の證言をしてはならない。

### 正直なるを信ぜしむる努力

上手にいい表はした虚言は、例へば空中の樓閣の如きものである。思ひ設けぬ時と場所にまのあたり打ち倒れる事を見せつけられるの

である。壯麗は壯麗であるが到底幻の影に過ぎない。然しながら下手な表現による正直は對者をして暗中模索の感を抱かしめる。正直なるや否や分明するまでは、虚偽と同様の扱ひを受けねばならない。

正直は販賣員に絶對必要である。それと同時に正直である事を速かに信任させる事は更に必要である。多くの場合、信頼心を促進せしむるものは、言葉や行動よりも態度及表情が効果ある事も考慮に値する。

### 信頼に程度あり

販賣員中には「信頼」といふ事を至極簡単に考へて居るものもある。

### 編輯者附記 弊社大阪出張所長石川安太氏の論文『電気販賣員』

は、讀者諸賢の愛讀を忝ふしてをりましたが、誌面の都合によりまして第三項、氣持ちよき外觀以下は明年に機會を得て載せることといたします。それで第三項以下の大體申上ますと、氣持ちよき外觀のうちには、第一印象、面貌、身嗜み、惡癖を慎しむ事等について述べてあり、第四項氣持ちよき人格のうちには、人の心は皆同じ、氣轉、忍耐、上品な笑話、禮義等について販賣員の注意を促し、第五項豊富なる知識を有する事のうちに、知識についての考察、人を知るの道、仕事に對する知識、知識の必要なる實例について記してをる。第六項の綿密なる事については、販賣員に綿密を缺くもの多きを注意し、綿密、遲鈍、偏頗の別より、綿密に程度あることを述べてをる。第七項の勇氣あり果斷に富む事なる

る。即ち何事でも、要求された事を要求された期間に要求された方法で爲したら、常に人に信頼される事が出来ると軽く決めて居る。それは確かにそうであらう。然しながら、總ての販賣員が皆此様に爲した處で信頼される程度に差異ある事を見逃してはならない。或る人は、他人に信頼さるゝ度合が、外の人よりも優れて居るといふ場合がある。此様な優れた特徴は、先天的のものもあらうし、又後天的のものもあらう、何れでもよい。販賣員は何等の疑ひもなく人に信頼さるゝに非ざれば決して己が能力を十分に發揮する事が出来ない。此特徴を修練する事は、販賣作業に成功するに缺くべからざる所のものである。

項目中には、人間の背骨、決心早きと早見切りをつけるとの別を記し、第八項順應性を有する事のうちに、我は我一人の我ならず、お天氣機嫌、一個の力よりも多數協同の力、運動と協調の力、才子とは何ぞや、人の力に大差なし、犠牲等の要目を含んでをる。第九項忠實なる事のうちに眞劍となる要素、責任を感じる要素、忠實は愛に發す、多忙は忠實を促す、第十項の創造力に富み工夫好きなる事のうちに、自が力で、舵のとれない船長、上手な外科醫、電動機の代りにハジミ車を賣つた販賣員等を記し、第十一項の常に喜んで事に當る事のうちに、氣輕に事を爲せ、泣事をいはぬ事、意見と責任を明かにせよ、分に安じ酬むるゝより多く勞す。第十二項熱心にして向上心に富む事のうちに、熱心とは、熱心は傳染力を有す、自然性の熱心、向上心等の要目を含んでをる。



# 安全な電気ストーブ

寒さが加はるにつれて温かい火が慾しい様になりました。ところで、御注意願ひ度い事は、炭又は瓦斯は燃焼に際して炭酸瓦斯や一酸化炭素を發生します。此等の瓦斯は人體に對して有毒であり、殊に一酸化炭素の如きは人命を奪ふ程危険なものであります。



病室などの採暖には、よく火をおこしてから持ち込めばよいものと考へて居られる方が多い様ですが、此危険千萬な一酸化炭素は赤くなつた火からも發生致します。

煙突のない我國の家屋

に於て理想的なストーブと申せば電気ストーブがあるのみにしても宜しい程で

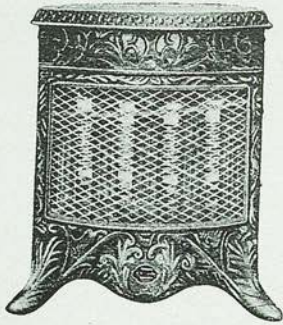
あります。電氣を熱として使用する事は恐る可き瓦斯を發生しないばかりでなく、電氣の全部が熱となるのであつて能率も良いし、又或程度の温度の加減も開閉器で出来ます。清潔であると共に其取扱の便利なる點に到つては、他の何物も及ばないのであります。

弊社は此度、内外電熱會社製電氣ストーブ各種を、特に安價を以て提供する事に致しました。品名、容量並に定價は次の通りであります

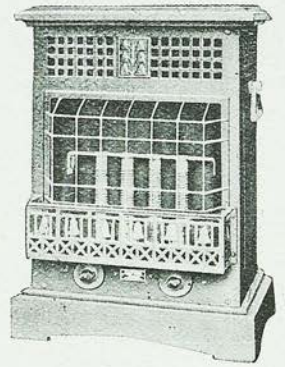
品名	電氣容量ワット	定價
湯沸兼用丸型反射ストーブ 全 特新案	五〇〇	二〇〇〇
A 號角型反射ストーブ 全 特新案	一、〇〇〇	二一〇〇
B 號角型反射ストーブ 全 特新案	二、〇〇〇	三三〇〇
C 2 號角型反射ストーブ 全 特新案	三、〇〇〇	四四〇〇
唐草スト 全 特新案	二、〇〇〇	五五〇〇
唐草式特大丸型ストーブ 全 特新案	三、〇〇〇	六六〇〇
20 號放熱式ストーブ 全 特新案	五、〇〇〇	九〇〇〇
D 號角型放熱式ストーブ 全 特新案	三、〇〇〇	一八〇〇
18 號電氣蒸氣放熱器 全 特新案	一、〇〇〇	一三五〇
電氣用ヒーター 全 特新案	二、〇〇〇	一六〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一、〇〇〇	四三〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二、〇〇〇	七九〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三、〇〇〇	六三〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四、〇〇〇	九〇〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	五、〇〇〇	一三五〇
電氣用電氣燭 全 特新案	六、〇〇〇	一八〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	七、〇〇〇	二一〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	八、〇〇〇	二四〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	九、〇〇〇	二七〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一〇、〇〇〇	三〇〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一一、〇〇〇	三三〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一二、〇〇〇	三六〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一三、〇〇〇	三九〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一四、〇〇〇	四二〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一五、〇〇〇	四五〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一六、〇〇〇	四八〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一七、〇〇〇	五一〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一八、〇〇〇	五四〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	一九、〇〇〇	五七〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二〇、〇〇〇	六〇〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二一、〇〇〇	六三〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二二、〇〇〇	六六〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二三、〇〇〇	六九〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二四、〇〇〇	七二〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二五、〇〇〇	七五〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二六、〇〇〇	七八〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二七、〇〇〇	八一〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二八、〇〇〇	八四〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	二九、〇〇〇	八七〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三〇、〇〇〇	九〇〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三一、〇〇〇	九三〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三二、〇〇〇	九六〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三三、〇〇〇	九九〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三四、〇〇〇	一〇二〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三五、〇〇〇	一〇五〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三六、〇〇〇	一〇八〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三七、〇〇〇	一一一〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三八、〇〇〇	一一四〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	三九、〇〇〇	一一七〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四〇、〇〇〇	一二〇〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四一、〇〇〇	一二三〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四二、〇〇〇	一二六〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四三、〇〇〇	一二九〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四四、〇〇〇	一三二〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四五、〇〇〇	一三五〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四六、〇〇〇	一三八〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四七、〇〇〇	一四一〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四八、〇〇〇	一四四〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	四九、〇〇〇	一四七〇〇
電氣用電氣燭 全 特新案	五〇、〇〇〇	一五〇〇〇

御注意  
×印の有る器具には、コード及びプラグが附屬して居ります。符號のない器具には、コード及びプラグは御指定に依り取附け、代價は別に頂きます。

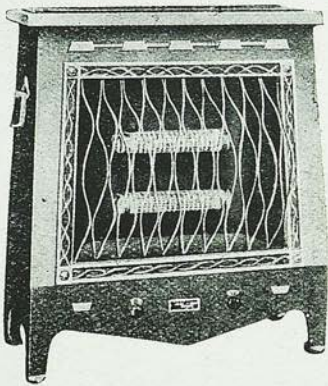
内外電熱會社製  
電 氣  
ス ト ー ブ



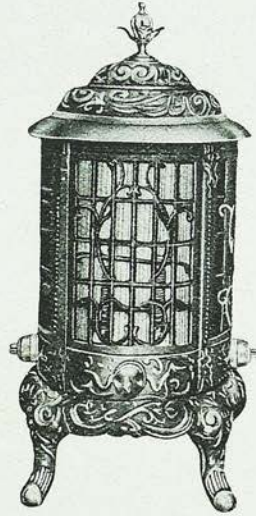
唐草ストーブ



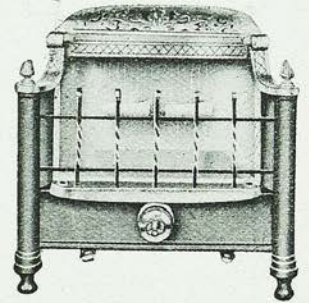
B 號角型反射ストーブ



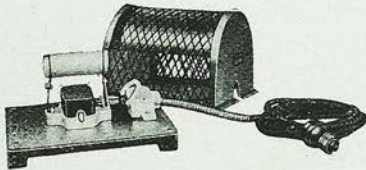
C-2號角型反射ストーブ



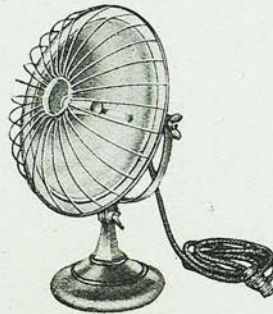
唐草式特大丸型ストーブ



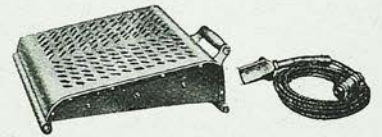
A 號角型反射ストーブ



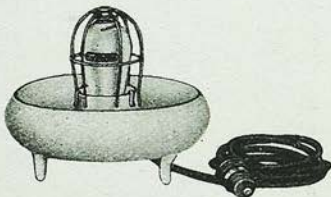
ヤグラ用電気炬燵



湯沸兼用丸型反射ストーブ



A 型 足 温 器



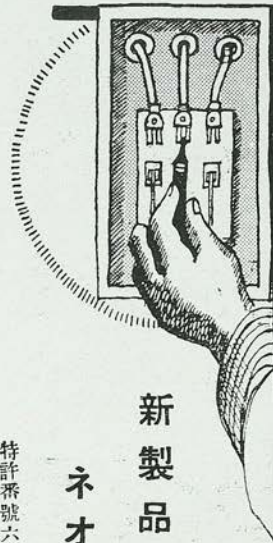
電気濕潤器



B 型 足 温 器

大 賣 捌 元  
東 京 電 氣 株 式 會 社  
神 奈 川 縣 川 崎 市





## 新製品紹介

## ネオンランプ検電器

特許番號六九五六號

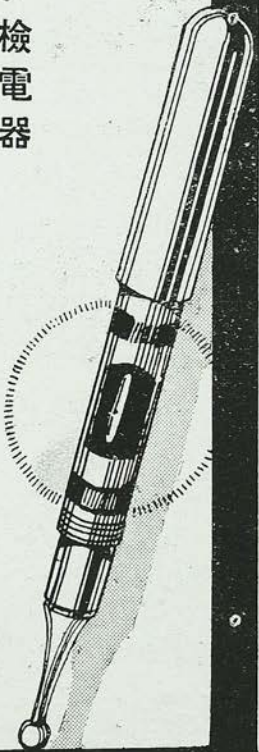
特許番號六五六六號

特許六六八四八號

實用新案八三四〇二號

ネオンランプ検電器は次の現象を利用して作られたものであります。即ち南極や北極に近い地方には、時々珍らしい光があらわれます。之れは極光(オーロラ)と云ひます。此の極光にはいろいろの色を表します。夫れは其處にある瓦斯によつて異なります。ネオンの如き瓦斯がある場合には、紅色を出します。此のオーロラの現象からして、ネオン瓦斯を真空管中に封じて、之れに電氣を興へますと、ネオン瓦斯の色が表れます。そして其處に電氣が來てをることがわかるのであります。従つて電線路や閉閉器に電氣の有無を知り得るし、自動車のエンヂンのプラグにあてれば發火状態を知ることが出来るのであります。

我社研究所では、輓近發達の稀有瓦斯を使用して種々研究した結果、交流では一〇〇ヴォルト級、直流では一五〇ヴォルト級の低電壓から容易に檢出のできる、ネオンランプ検電器を發明いたしました。それで電線路や閉閉器に電氣の有無を知るのは勿論、ベルトの帶電の如きは、其のベルトの附近に檢電器を近づけますと、其色は赤色でありますから、容易に見分けることができるのであります。



ネオンランプについては前號(マツダ新報第十四號第十號)に關重廣氏の記事が御座いますから御参照下さい。

第一圖 ネオンランプ検電器

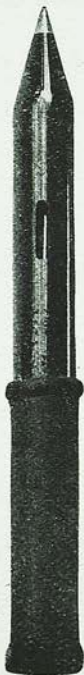
第一號



第二號



第三號

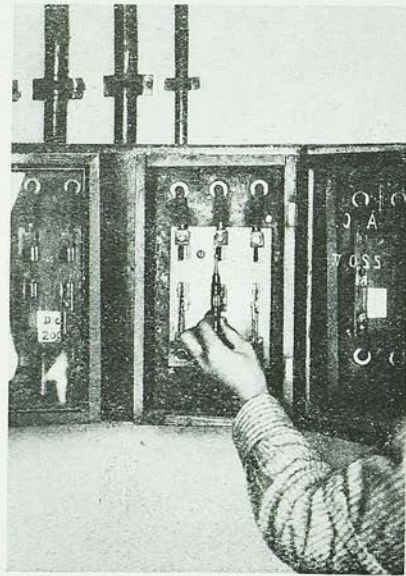


第四號

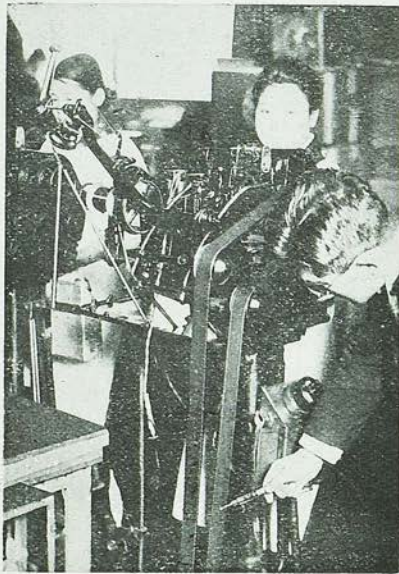


ネオンランプ検電器の構造及使用方法

本器の構造は第一圖に示してあるやうに、萬年筆形になつて居りまして、第一號、第二號、第三號、第四號の四種類があります。



交流220 ヴォルト50サイクル開閉器の送電中なるや否やを試驗する場合



小型ベルトのスリッパ試験

弊社で製作してをりますネオンランプ検電器のうち、第一號及第二號は次のやうな場合に用ひられます。

- (1) 配電線及開閉器に電氣の有無
- (2) ベルト等のスリッパ及帶電試驗
- (3) ガソリン機關等の發火狀態試驗

即ち第一號或は第二號ネオンランプ検電器は配電線及開閉器が交流ならば三〇〇ヴォルト、直流ならば五〇〇ヴォルト以下に用ひられます。

電力會社や大工場に於て、電氣工作物の工事を行ふ際電氣従業者に、危害を興へる最も多い事故は三五〇〇ヴォルト級の高壓であります。



高壓 3,500 ヴォルト電線路の送電中なるや否やを完全なるゴム被覆線上よりの試験

ます。三五〇〇ヴォルト級の特高線路が生きて居るか、否かを檢電する装置は色々ありますが、取扱ひが不便であつたり、或は確實性に乏しいために折角の装置が充分能力を發揮せぬ事は誠に遺憾の事であります。弊社に於ては此の恐れを除くために、高壓用として第三號ネオンランプ検電器を製作しました。

第三號ネオンランプ検電器は三五〇〇ヴォルト級の高壓線路の檢



電の外に尙左記の如き用途があります。

- (1) 廻轉部分の静電氣の有無
- (2) 廻轉部(ベルト等)のスリップ試験
- (3) 内燃機關の發火狀態試験
- (4) 無線電信電話發振試験

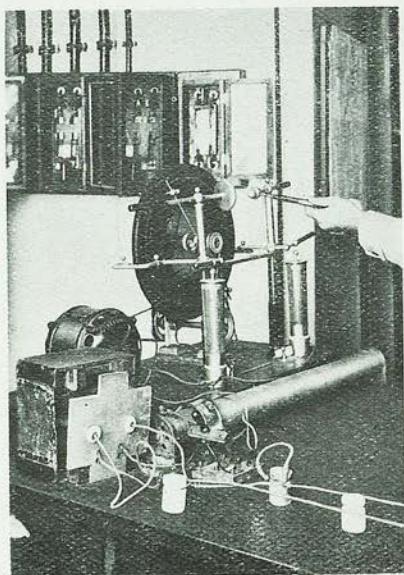
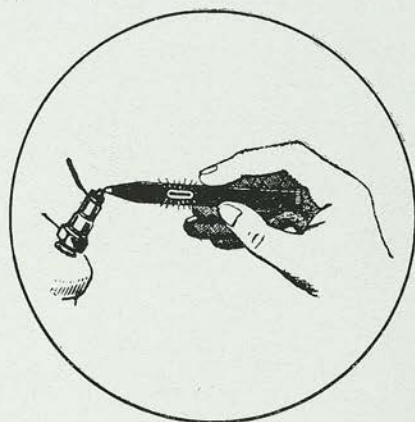
第四號ネオンランプ檢電器は自動車用

として製作したものであります。即ち上圖に示せる如く、檢電器の金屬端を廻轉中の

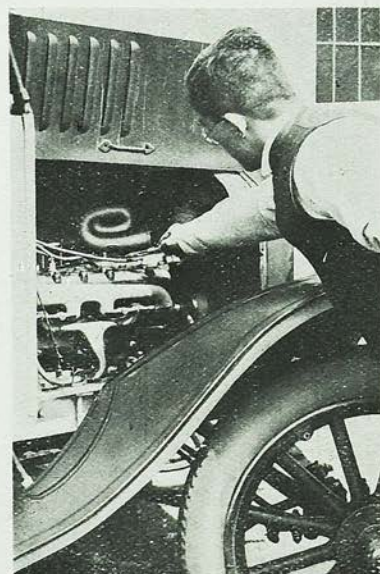
「エンヂン」所屬の「ブラツグ」の尖端

に押當ると、其檢電器の小窓よりネオンランプが赤黄色の光を發するのが見へます。其色具合にて「エンヂン」の發火狀態を知るのであります。

弊社製のネオン檢電器の定價は次の通りであります。



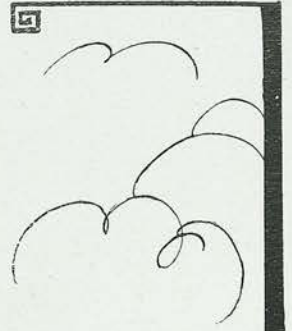
ネオンランプ 檢電器を用ひて静電氣の試験



ガソリン機關の發火、狀態試験

ネオンランプ檢電器定價表				
一號	四圓也	二號	三圓五十錢也	檢電用 ネオンランプ
三號	四圓也	三號用 ネオンランプ	二號	二圓也
四號	二圓也	四號用 ネオンランプ	四號	七十錢也

猶ネオンランプ檢電器については、別に説明書がありますから、それについて詳しい使用法などを御承知願います。



## 進み行くラジオ (一)

ハイミューチューブUX二四〇に就いて

は し が き

「珍らしいもの」としてラジオを眺めた時代は最早過ぎ去つた。之を如何に活用し如何に改良す可きか、今後の問題である。受信装置にしてもつと堅牢なものが欲しい。もつと受話音をきれいにする方法はないだらうか。もつと手数がかゝらないで而も安價ですむ工夫はないだらうか。何かいゝ真空管はないであらうか。進み行くラジオ。ラジオはこれからほんとうの歩みを始めるのである。

「進み行くラジオ」——そうした掲題の下に其後の研究に成る新しい真空管について誌して見度いと思ふ。そして先づラジオトロンUX二四〇から始める事にする。

### (一) ラジオトロンUX二四〇とはどう云ふ真空管であるか

ラジオトロンUX二四〇は最も進歩した新しい真空管の一つである。外見は第一圖の寫眞に示す通りのもので、寸法は全く二〇一A型と同一であるが、増幅率が特に三〇になる様グリッドの構造を變へて設計してある。増幅率が三〇だと云へば實に大したものである。



東京電氣株式會社  
販賣部器具課

今 井 孝

故に檢波用として又、抵抗増幅用（又はインピーダンス増幅用）として非常に工合がよく、殊に抵抗増幅用としてはこれまでのどの真空管よりも遙かによい結果を得ることが出来る。特性曲線は第二圖の如きものであつて規格は次の通りである。

フィラメント電壓	五ヴォルト
フィラメント電流	〇・二五アムペア
プレート電壓	一三五——一八〇ヴォルト
プレート抵抗	一五〇〇〇〇オーム
増幅率	三〇
定價	金八圓



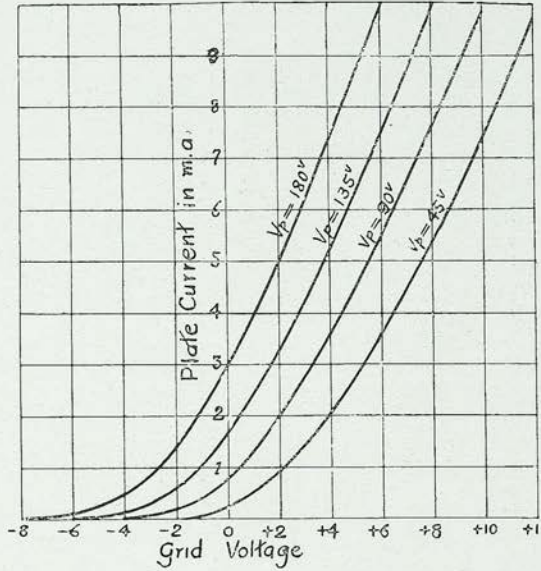
第一圖

### (二) 抵抗増幅器とラジオトロンUX二四〇

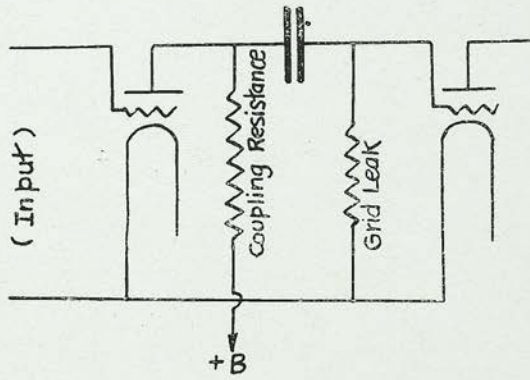
抵抗増幅法と云ふのは變壓器の代りに高抵抗を使用する方式であ



つて、第三圖に示す様な簡単な結線方法によつて、充分増幅の目的が達し得られるのである。抵抗増幅法は高周波増幅にも、低周波増幅にも利用出来、調整が非常に簡単であるのみならず、受話音色が目立つてきれいであり、變壓器の様に屢々斷線する心配も少い。故に抵抗増幅は最も理想的な増幅法なのである。然るに之が今日一般に用ひられてゐない理由は、擴大度が真空管の増幅率のみによつて定まる結果、増幅率と變成比を共に有効に働かせる事の出来る變壓器増



第 二 圖



第 三 圖

UX二四〇は單にアマチュア用の真空管であるのみならず、精密を必要とする測定用としても歡迎されてゐる。抵抗増幅に用ひる場合の定数は次の通りである。

B 電池 電 壓  
グリッドバイアス  
増 幅 器 抵 抗

(三) 檢波管としてラヂオロンUX二四〇

一三五——一八〇ヴォルト  
マイナス—・五——三・〇ヴォルト  
二五〇〇〇〇オーーム

檢波管としてラヂオロンUX二四〇を用いた場合に、音聲のゆがみの少い事を望むならば、アノード、デテクションに依るのがよいと思ふ。其場合の定数は次の通りである。

B 電池 電 壓

一八〇——一三五ヴォルト  
グリッドバイアス

(四) サイモトロンUX二四〇に就て

マイナス四・五——三・〇ヴォルト

幅法に比して音が小さく且、B電池を澤山必要としたからである。

然し若しラヂオロンUX二四〇の如き増幅率の大きい真空管を使用するならば、此缺點を補ひ大いに其長所を活用する事が出来る。近頃米國では抵抗増幅が盛に使はれ出したが、ラヂオロンUX二四〇の出現によつて、更に一層持囃される様になるであらう。

吾社でもラヂオロンUX二四〇と、全然同一規格性能を有するサイモトロンUX二四〇が出来て、特性非常によろしく、最近市場に出る事になつて居る。

(以上)

照 明 學 校 た よ り



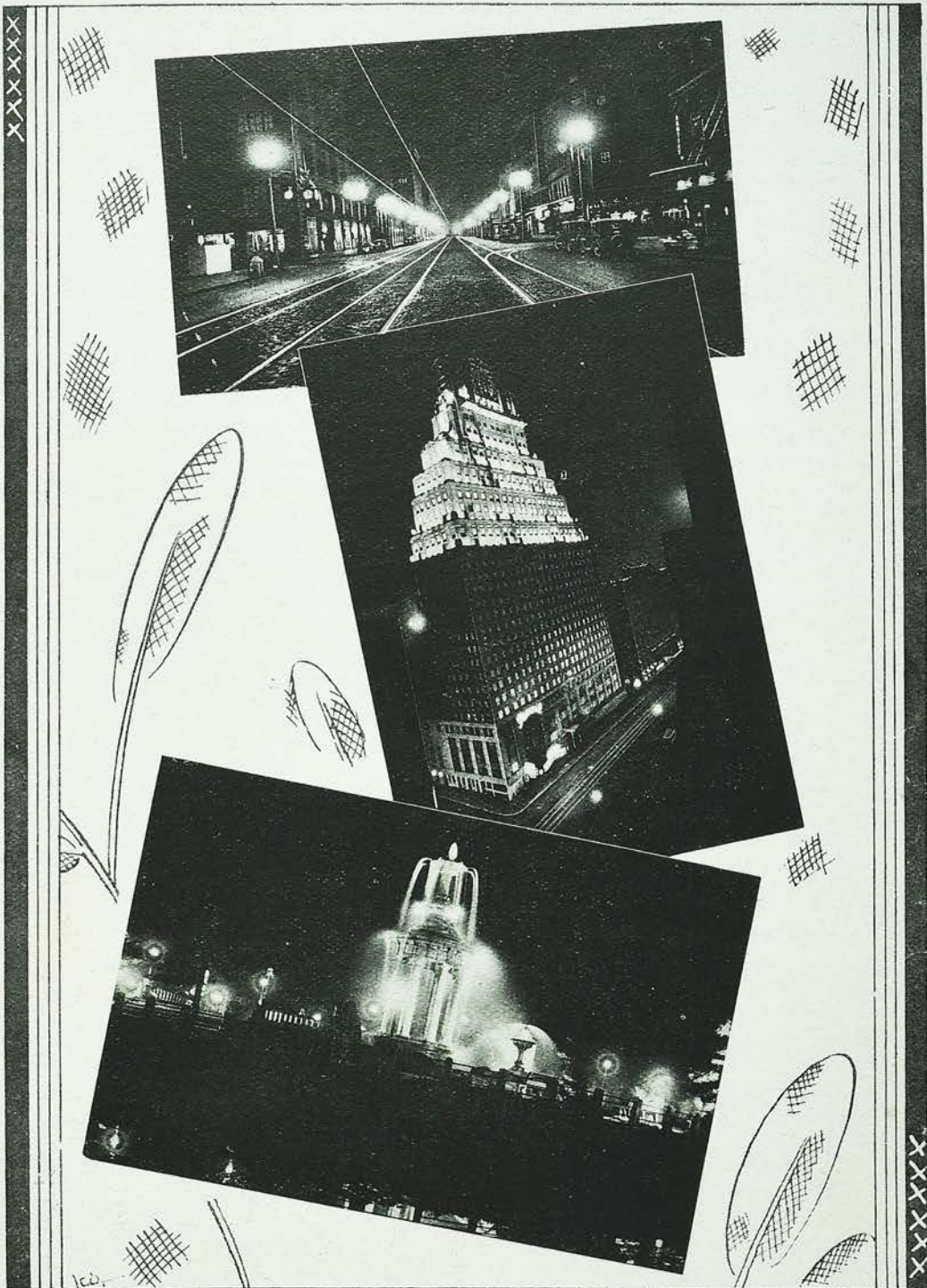
前號に申し上げました如く、十月十日から十五日まで照明學校最初の照明講習會を開きました。

上の寫眞は其折りの紀念撮影であります。

飯島高次郎氏	青島貞久氏	野川瑞穂氏	涌波多喜男氏	山本勝也氏	中田四三松氏	柏本威夫氏	佐々木久三郎氏	大内善藏氏	齋藤金一氏	河野諭吉氏	稻次肇氏	森三木男氏	三隅隆任氏	奥海浩氏	二之湯秀一氏	
			毛利三四郎氏	黒羽美喜男氏	荒尾兼雄氏	梅田敏晴氏	川口春太郎氏	川口春太郎氏	齋藤敏治氏	藤健輔氏	小川安之助氏	上野龜次郎氏	國島達氏	山下周治氏	佐藤雄四郎氏	
															中西與輔氏	
																藤田芳藏氏
																依藤太郎氏
																奥村偉三郎氏
																杉山彌一氏
																黒澤涼之助氏
																河野元彦氏
																關重廣氏
																小川榮次郎氏
																太田二郎氏
																齋田成德氏
																八卷升次氏
																高品増之助氏



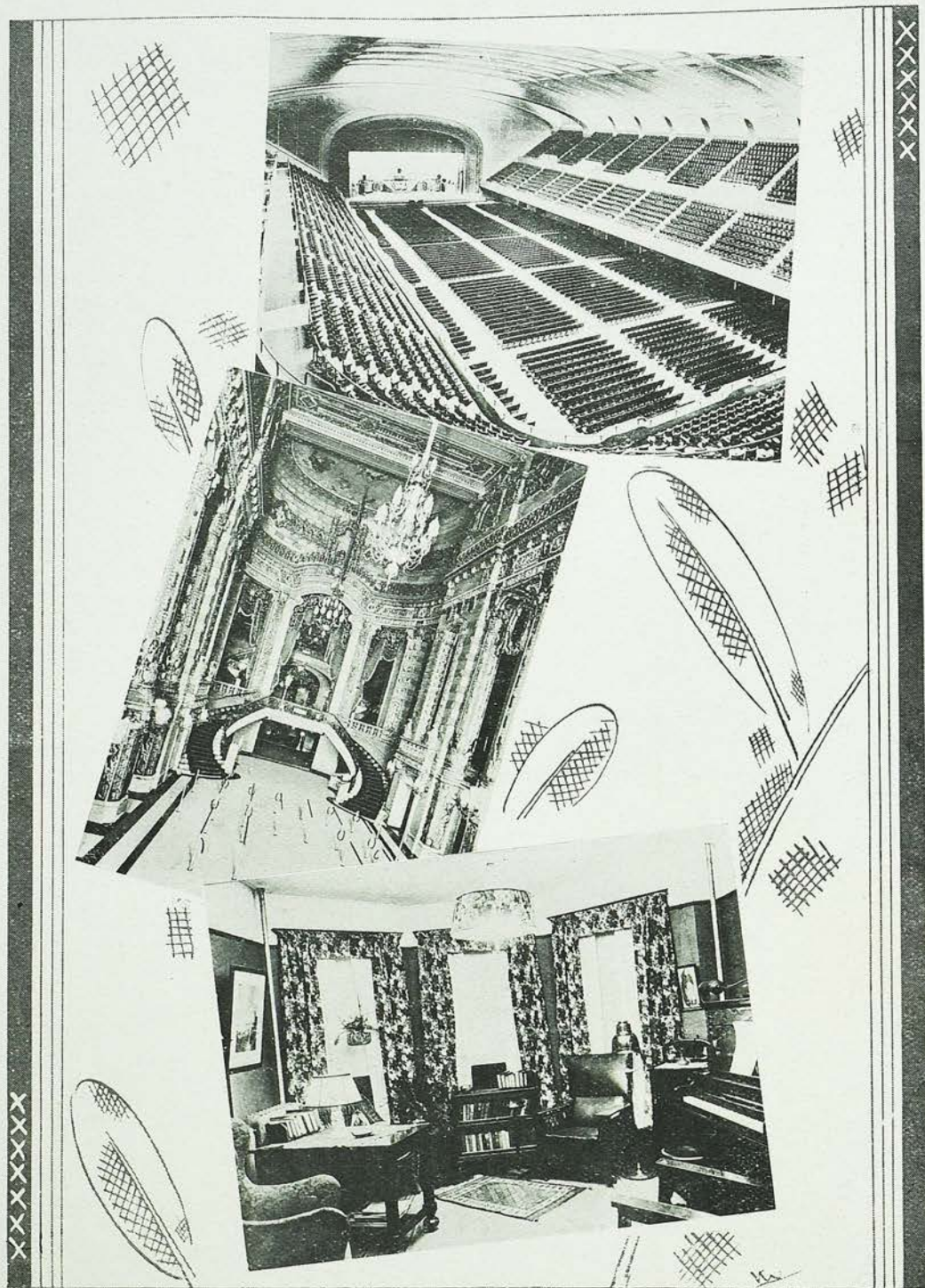
照 明 の い ろ い ろ



世界で一番明るいシカゴのステート・ストリート  
ニューヨークのタイムスクエアに出来た最新式のパラマウント劇場  
名古屋舞鶴公園の投光器照明



世 界 に 於 け る



クリーブランドのシテイーホールの内部  
莊麗なるシカゴ、アツプタウン劇場の内部  
畫にも優るさもしびに心地よき客室



# マツダ新報八月號を讀みて

常陸水戸 室 伏 博

前茨城電氣、現東部電力會社湊營業所技師室伏博氏は、斯界の研究者として、電球もカーボン時代より蒐集して居らるゝ程の熱心家であります。同

氏はマツダ新報第八號マークを賣込む迄、並に電球値下の通知に對し別紙の通りの感想文を寄せられました。如斯吾社を愛せらるゝ人が一人でも餘計を有する事は、直接販賣の衝に當る私共の喜である計で無く、新報の編輯に従事せらるゝ貴下の御努力も酬いらるゝ處かと思つて御同慶に存じます。然るに當社の今日の大をなすに至る迄の苦心經營を忘れ、又は知らずして徒に反感を抱き、又は値段のみに迷はされて安球に走り、或は切角の新報を全然見ぬ御得意様も無いではありません。若し同封書狀が此等の御得意に對し何等かの反省ともなり、又は同業電燈會社社員の聲として讀まれるならば何等か得る處もあるかと思つて、貴下に御送附申上します。(新納時雄報)

天高く氣澄み、暑熱に苦しみし人生もこゝに甦生の「シーズン」に入りしことを喜ぶと共に、御社諸賢の多幸多榮を慶福申し上げます。扱説「マツダ」新報爾來御惠送を辱うし、御蔭を以て片田舎の僻地にをります小生も「新報」の爲めに得るところ多大なるは感謝に外なく、深く御禮を申し上げます。今回拜受せる第八號は其誌料とり／＼面白く且つ有益なるは申す迄も無之、特に「マツダラン

プの由來」は之を閱讀して往年を追想し、轉た懷舊の念に不堪るもの有之ることを告白致します。

『東部電力』の前半身『茨城電氣』が若心慘憺の結果、明治四十年水戸市に始めて電燈供給を開始せる際には、電球は勿論「カーボンランプ」時代でありました。其時は御社『東京電氣』も電球製造には惡戰苦闘の時代であつたのでした。

獨逸のO電球が熾んに輸入され、本邦の電燈會社は其價格の低率なる點よりして、輸入品を使用する傾向であつたことを記憶して居ります。

我『茨城電氣』も開業してこゝ數年漸く需要家も殖え、電燈數も豫定數に達し、無配當を數回續けて、株主にもヤツと幾分の配當をなし得る様になりました。そして一面に於て今後の需要にも應じ且つ會社本來の目的、産業方面にも多大の貢獻せんものと、從來の火力發電設備以外に水力による發電事業を開始し、電燈料金を低下し、營業上に大刷新を施さんとするに際して、水戸市に一大勁敵が出現しました。それは茨城瓦斯會社の營業開始であります。同會社は斯業に一大權威を有する經驗家某氏を招じて専務とし、新進氣鋭極めて斬新なる營業方針を以て、水戸市に於ける灯界を席捲せんとする

のでありまして、基礎漸く固まり、辛うじて一本立となりしばかりの『茨電會社』に對して、市の有力なる新聞社を背景とし、一大宣戰を布告したのでありましたが、其際『電氣會社』を双肩に擔ひたる前嶋社長の胸中又苦心の程察すべきであります。斯る際に於て電球がもし前時代の「カーボン」であるとしたら、電氣會社は一とたまりもなく、瓦斯會社の爲めに大屈辱の憂き目を見たのでせうが、其當時に於て前嶋社長の炯眼なる早くも折り柄世に出現した「マツダランプ」を率先採用し、且つ電灯料金を半減して市民の需要に應じた爲め新進氣鋭、陽の出の勢ひであつた『瓦斯會社』も一時は市民の好機心に投じて豫想外の顧客を吸収してをりましたが、電燈の利便と其文化的施設の理想ともいふべき電燈に馴れし市民は、瓦斯の灯火は日を経るに従ひ、殆んど問題にされぬ様になり、到底、『瓦斯』が『電燈』の敵ではなかつたのでした。これは一面『マツダランプ』が世に出現した偉大なる賜ものによると中さねばなりません。

『マツダランプ』の生誕は實に我社を誕生に導ける最大恩人でありました。貳拾餘年を當社に奉仕せる小生は本日「マツダランプ」の値下廣告を見るに際し、一面に於て『新報』の「マツダランプの由來」を閱讀して感慨無量、茲に謹んで御社經營多年の苦心努力、本邦照明界の爲めに盡せる所謂『マツダサービス』に對して衷心よりの敬意を表すると共に、斯界の大恩人故藤岡博士及故新莊學士等の犠牲的の尊き精神に深く敬虔の意を表示する次第であります。

今夏中數日の閑を獲て近海航行を企て、八丈島に航し伊豆大島に遊びましたが、斯る孤島にもわが電燈業が經營せられて、昭代の文

化的恵みに浴する兩島民の幸福を喜ぶのであります。

(昭和二年十月一日)

## 大島ぶし

『マツダランプ』と題して

○つゝい椿は御山を照らすヨウ

「マツダランプ」はヨウ 世(夜)をてらすヨウハイ

○わたしや「マツダ」の瓦斯入「ランプ」ヨウ

球の改良にやヨウ 苦勞するヨウハイ

## 不平の分析

孔 孟 生

人間の不平を分析すれば、其の五割以上は自己の評價と、周囲の者の自己に對する評價とが、一致せざるに依りて來るやうである。孔夫子は「人不知不愠、不亦君子」と云はれたけれども、斯る君子は非常に希有であつて、孔夫子自身さへも時として、「莫我知也」この嘆聲を洩らされた程である。聖人すら如斯であるから、煩惱界裡にある吾人が此の嘆聲を屢々發するのは理の當然と云はなければならぬ。

人は必ずしも報酬のみを心掛くるものではない。乍然如何程無垢なる親切も、それが相手に徹底しない場合、若しくは徹底しても、其反響が出て來ない場合には、聊か嫌だらない心地のするものが常である。汽車中に於て座席を譲つてさへ、挨拶もなしに之を占められたものに對しては、餘り愉快を覺えぬのが人情である。況んや一般の民衆の爲めに頗る大なる犠牲を拂ひたる曉に於て、假令其の動機が醇乎として醇なる愛國の至情より發したるものとしても、若し其の功を録せず又其勳を認められなかつたならば、口には怨言を出さなくても、其顔には寛容を出さなくとも、其心底には一點の不平のないといふことは、出來ないものである。

(大阪能率研究會誌 昭和二年十一月號)



## 東京市主催納涼會電気設備に就て

東京市電氣局 渡 邊 舜 亮

「土一升金一升」と云はれる東京の真中では、一坪の庭を持つこともなか／＼容易ではありません。震災前であつてさへ既に此恨みをかこたれて居たので、東京市は諸所に小公園を造る計畫を建てたり、既設の公園は最も有意義に利用することに努め、殊に帝都の中心である日比谷公園では、「さつきの會」「盆景の會」「菊花大會」など四季折々市民慰安の催しをして來ました。

そして此様な企が、自治體の主催にかゝる先鞭であり、市民として喜ばしい行事であることを、ひそかに誇つて居りました。

斯くして小公園の施設は漸次完成に、近つきかけたのでありましたが、一朝あの大震災に見舞はれて、一とたまりもなく焦土の巷となり、剩へ市民の大半が「バラツク」生活をせねばならない状態になつてしまひました。

慰安施設は奪はれ、復興に日夜苛まれる市民の勞苦は並大抵ではないのであります。更に「バラツク」の燃える様な眞夏の暑さは、此苦しみを味はふ者以外の到底想像もつかない程であります。

茲に市は其後此慰安施設の第一歩とし、萬難を排して大正十四年夏、日比谷公園に「市民納涼會」を開催しました。以後引續き本年は其第三回目であります。

復興にいそしまれる市民諸氏に對しては、日中の勞を終へてからでなしには、來會を望まれませんので、夜を主とする納涼會でなければなりません、悲しいかな東京には、夜の公園として擧げるものがなく、日比谷も其例に漏れません。そこで臨時に次の様な納涼に相應はしい電気施設をして尙一入光彩を添へました。

本年は諒闇中なので華を去り質實を旨とし、凡ての施設を清楚にしましたことを申し添へ、順次施設の大略を記させよう。

第一圖は納涼會場（日比谷公園）の略圖であります、之で諸施設の位置が大體お解りになるでせう。電燈動力などの數は最後に添へてある別表を御覽下さい。

### 一、各 門

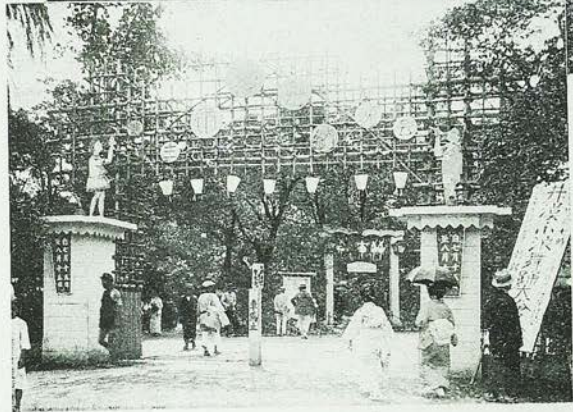
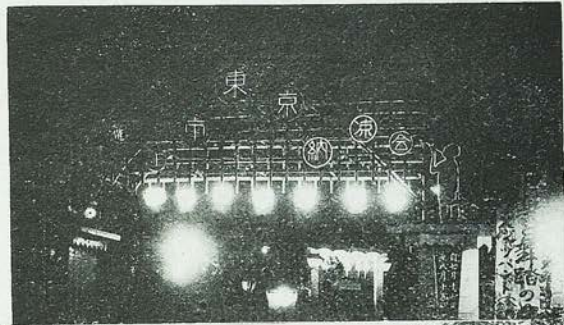
有樂、日比谷、幸及櫻の各門は湯上りの浴衣かけのやうに、あつさり裝飾され、其傍には園内の道標や、餘興番組などを掲示した案内板があつて、漏れなく場内を二巡出来るやうに、遺憾なからしめてあります。

殊に有樂門の「ネオンランプ」は「東京電氣株式會社」へ特に依頼して作られたもので、意匠が面白かつたのと「ネオンランプ」其物が目新しいのとで一層好評を博しました。





有樂門のネオンランプ（上圖夜景、下圖晝景）



## 二、沿道裝飾と照明

沿道には青葉を縫ふて乳色の「グローブ」に覆はれた電燈が落附いた感じに夜の風致を添へました。

昨年までは之を色電球にしたのですが、餘り俗に流れ情趣を損じますので、特に斯く試みて成功したのであります。

## 三、心字池の五色の瀧と電氣螢

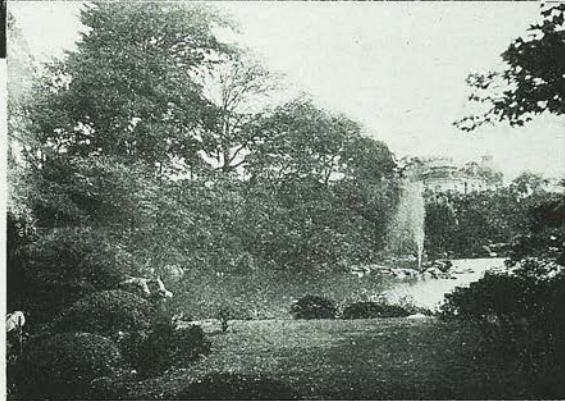
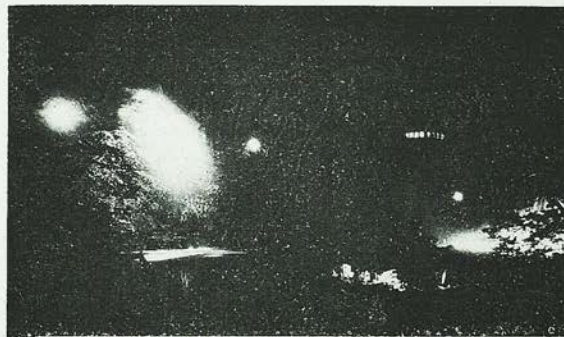
暑い時は水の音を聞いてさへ涼味を感じます。寛を走る水の音、川瀬に躍る水の音、皆それ／＼に涼しさを覚えさせます。

之は心字池の水の利用。池を圍ふ石垣上の大樹に水を揚げて樹間から一大噴霧を落下させ、樹上と水中から五彩の光に、螢氣樓の様

な五色の瀧を現はしました。

玉垂の風に打たれてさゞめく様な音、涼しさの限りと云ふより他はありません。

心字池の五色の瀧と電氣螢



夜露置く青葉の陰や、水邊に突出して、風にゆら／＼柳の枝などには電氣螢が、星の精の様に可憐な光を明滅して、涼味萬斛の一場面が展開されました。

## 四、涼 風 洞

心字池から舊音樂堂への間道と、つゝち山のほとりとの二ヶ所に涼風洞があります。洞は隧道式で入れば香氣馥郁、涼風が暑さを忘れさせると云ふ仕組で、内部の壁面に硝子張りの、金魚槽を置いた



ことは一段と涼味を添へる景物でありました。

山頂の靈氣にうたると如き涼風洞



### 五、花 壇

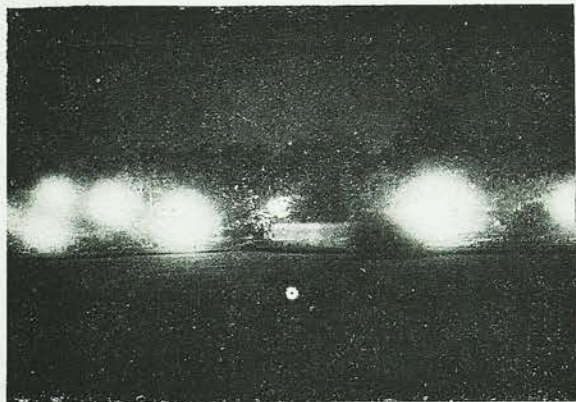
日比谷の花壇は御承知の通り純洋式に設らへられていますので、照明も亦洋式に則ることゝしました。

花壇の要所々々に「スタンド」を配置して（「スタンド」は特に花壇用として設計したものであります。）花壇全體を明るく浮出させ、中央の高塔から廻轉器に依る五彩の光線を放射させ、高塔を取り巻く芝生を、紅紫黄白次々に、幻の様な、夢の國とでも云ふ様な氣分を漂はせました。

### 六、野外活動寫眞

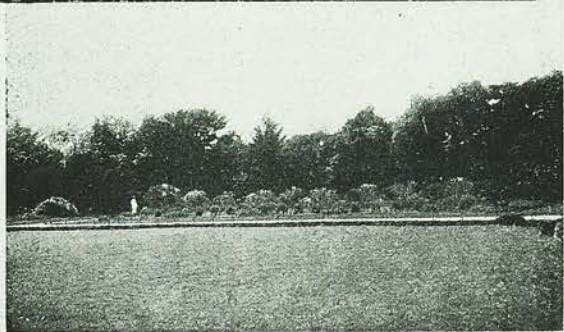
運動場の中央廣場に大「スクリーン」を設けて、各新聞社の時事映畫や、松竹其他の映畫に「フアン」の興味をそゝり、高聲電話に依る説明が至極好評でした。

地の精と天の恵みを集めし花壇



### 七、日本新勝景

夏は殊に山の神秘、海の自然に浸りたいと思ひます。幸ひ東京日々及大阪毎日兩新聞社に依つて企てられた「日本新勝景推薦」に高點を得た「清澄山」「昇仙峽」「高尾山」「熱海」「長良川」「花巻温泉」「靈山」「天龍峽」「長瀨」及「雲仙岳」の十景の大デオラマが運動場廣場に出陳されました。一景の間口十三間、奥行四間と云ふ大模型で、天下の絶景を目の當りに見る様な出來榮で、旅する閑を



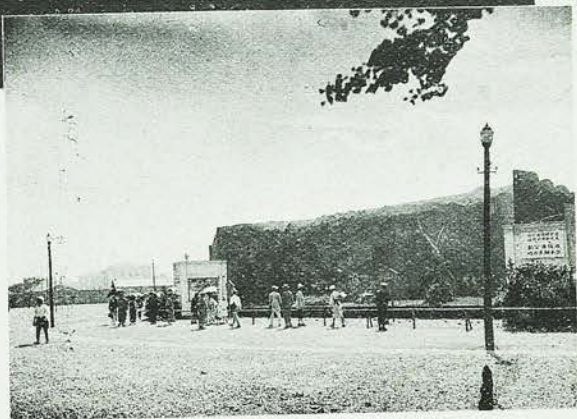
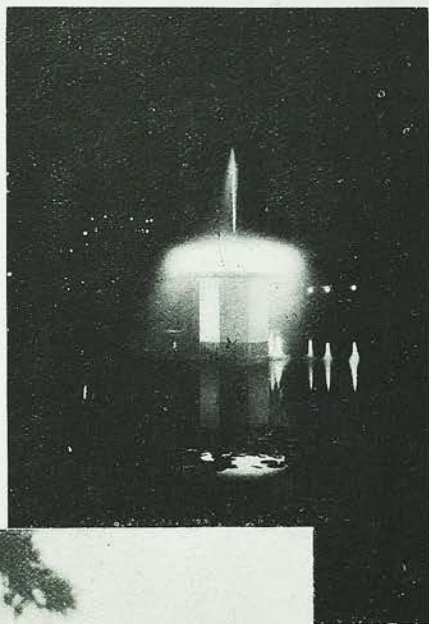
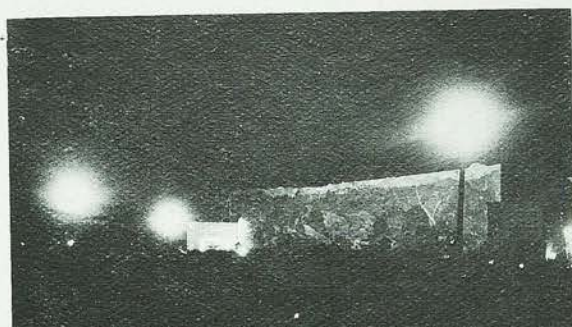


持たない多くの市民にとつては、居ながら一時に山河の名眉に接することが出来、又何所かへ夏季の行樂をしやうとする市民にとつては、好羅針盤となつたことなど、特に後援せられた東京日々新聞社に大きな感謝を献げなければなりません。

# 八、つゝち山

花壇の純洋式に引換へてこれ

日本新勝景の大デカラマ



人氣をあつめし雲形池の噴水

は又和風の趣深い所でもありますので、照明は雅致ある雪洞によりました。

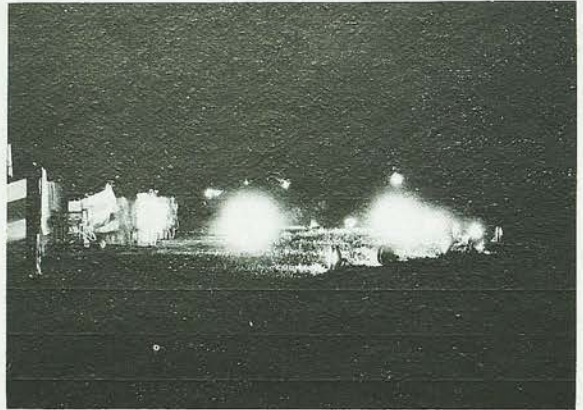
彼方此方に點在する四阿の釣燈籠が涼風を生むかの様に見えて詩情豊かなものでありました。

## 九、雲形池の噴水

雲形池は鶴の噴水に依つて多く知られてゐます。

其鶴の噴水に趣向を凝したお化粧をして、見違へる程の雄大さを表現しました。鶴が冲天に吐く水柱や、臺座の周圍に湧く噴霧に池の三方から投げる彩光が、次々にいろどられて、恍惚とならずには居られません。水柱や噴霧から既に涼しい感じを受けるのですが、光の構成に依つて一層涼味を増す効果を揚げました。

## 十、戸外舞踊



心地よき胡蝶の舞を見せる戸外舞踊場

今回の新しい試みの一つであります。

廣い草地の中央を其儘舞臺として、兒童の舞踊、其他喜歌劇等の餘興を催しました。それが離れた場所から見る觀衆には、闇中に胡蝶の舞を見る如く、天國を此所に移したかの様に思はせ、充分納涼氣分を高調させることが出来ました。

## 十一、龍宮塔

小兒遊戯場のほとりの、龍宮塔は群魚の游泳する様が畫の様に、水底に設らへた明滅する色電燈は殊更に子供達に喜ばれ、水中の御殿からは今にも乙姫が現はれる様にお伽の國を思はせました。

## 十二、新舊音樂堂

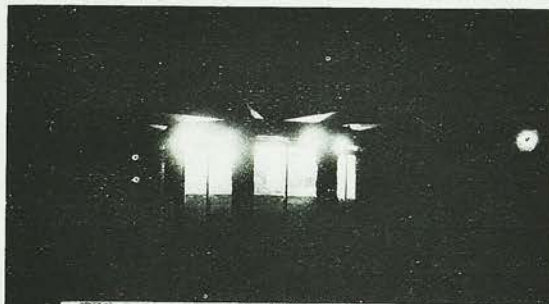
新音樂堂では毎夜講演、和洋音樂、舞踊大會などを催し、大歡樂境として、それ／＼の趣味の人々を待ち、舊音樂堂は民謡其他大衆的な餘興に依つて、眼を楽しませながら休息をとれる様にしました。

## 十三、救護所其他

舊音樂堂の傍に救護所、納涼本部、警官詰所を設けました。救護

所には毎晩醫員や看護婦が詰めて、怪我や病人の應急手當をし、毎晩のやうにある迷子に對しては、本部から各所に引いてある高聲電話を以て、連れの人を呼び出す様にして、好成績を得ました。高聲電話は此様な事故を解決する機關としての外、音樂堂の實演放送やラヂオの中継として大いに活躍したのであります。

目もあやなる龍宮塔



## 十四、其他

各所に點在する四阿や水呑所、其他必要な箇所には夫々適當な照明施設をしました。之等は省略して設備一覽表に譲ることゝ致します。



[illegible]

## 日比谷公園納涼會に遊びて

日比谷公園の納涼會は、酷暑に喘ぐ都人に、夜の慰安と歡樂とを與えるのが、その主なる目的ではありませんが、近年それは、家庭的に一度は必ず觀に行かねばならないやうな、帝都に於ける年中行事の一つとして指折らるゝ催となりました。

實に、夜の公園として、五彩の照明に輝く此の歡樂境は、終日の執務に疲れ果てた我等の身心を愉するに、充分の効顯のあつたことを思ひ起さずにはゐられません。而して、四季を通じての夜の明りの公園の必要を痛感せずにはゐられません。こうした欲求は、恐らくは一般市民の等しく切實に感ぜられる所のものでありませう。

それはともあれ、私は今夏數回、此の享樂裡に夜の更くるを忘れましたが、その雜踏には聊か閉口した事もあります。而して開會の當初には一夜の入場者が拾數萬人を算えられたやうに聞いてゐます。故に、かやうな催しは、輕鐵會社や、電軌會社等にとりまして乗客の吸引に因る收益増加を齎らす、最もよい策の一つであると感ぜざるを得ないのであります。

勿論かゝる事は、既に何れの地に於いても計劃せられ、今更事新しく申す程のことではありませんが、共進會とか祭禮又は紀念日などにも、夜の電燈應用につき、種々、嶄新奇抜な催しにつき考案計劃

東京電氣株式會社  
東京出張所

勝 部 吉 次 郎

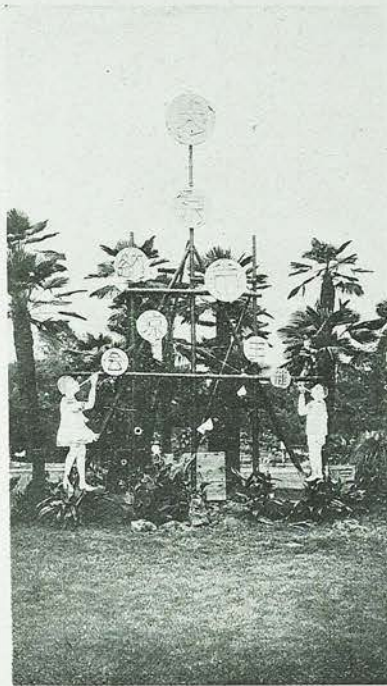
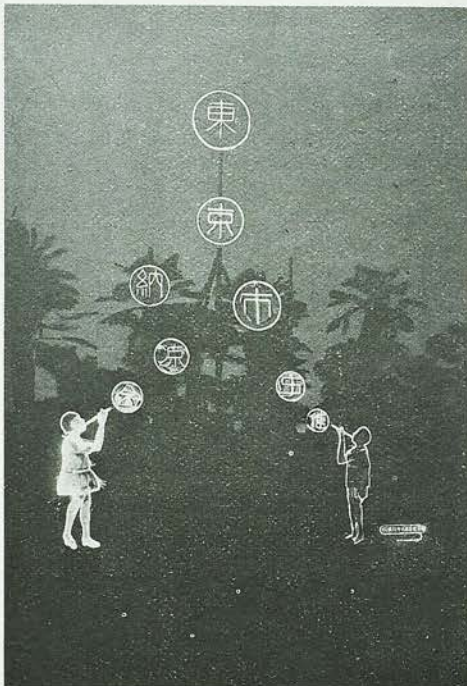
せられ、其の苦心の程を聞き、時々、御相談に與ることもあります。就きまして、何かよい御參考になることが一般に發表せられたならばと、常に念慮にありました處、今回、東京市主催にかゝる、今年の日比谷公園納涼會の催しにつき、御寄稿があつたと承りましたので、其施設につきまして聊か感じた點を二三述べて戴きたいのであります。

### (一) ネオン放電管

ネオン放電管の完成に就ては、弊社研究所の橋技師の研鑽にかゝる所のもの故、私は技術的方面の事は省略いたしますが、昨年東京市電氣局に於て最も嶄新な、電氣的サインとして之れを採用せられ、日比谷公園花壇の中央部へ高さ約十七尺に施設せられましたのが、本邦に於ける最初の最大のものであります(寫眞參照)。今年は日比谷の電車交叉點の入口に、昨年使用のものを只取付裝置を變更して使用せられました。今年は封入瓦斯を變へて、各文字の發光色を變じたい御希望がありました共、時日の關係上、其運びが完ふせられなかつたのは残念でありました。明年は多分組立られた意匠は



勿論、其色合も緑とか、紫とか種々の色合の組合せも出来ることゝ  
豫想せられます。要するに、ネオン放電管は任意の型に造り得らる



昨年の日比谷公園納涼會を飾りしネオン放電管 (向つて右晝景 向つて左夜景)

事、消費電力極めて少ない事等により、今後サインとして利用せら

るゝに好適のものと信じます。

## (二) 沿道照明に就て

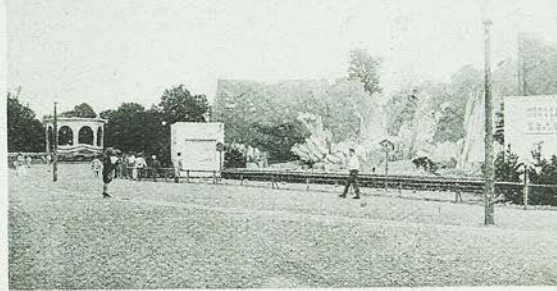
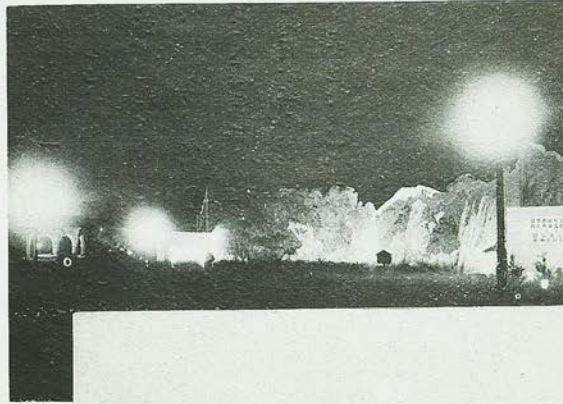
沿道照明は昨年は着色電球で、種々の催しの燈明と混同し、少々煩縛の憾みがありました。今年は只單に新マツダ瓦斯入り電球となりましたので、比較的穩かな高尚な好感を得ました。茲々で御注意を御願ひいたしますのは、元來公園の照明と一般街路の照明とは必ずしも、同一様式のものでないとしても、公園の街路の照明だけは街路と略々、同一性質に見做さる可きものではないかと考えられます。而して其等街路或は街路等の照明は、可成單純化せられた一様型式のもので統一美を發揮するやうな、比較的高尚な器具で以て出来る丈け、均等照明を計られた方が成功であると信じます。勿論郊外の如きは經濟上、黑坊主的な照明方法も必要でありませうが、淺草公園の如きは如何に廣場とは申せ、數種の變形のものが同一視界内に建設せらるるなどは決して、其環境の美化する所以ではありません。心あるものには醜惡の感をさへ懷かせるのであります。一寸脱線いたしました。が、街路や通路となる場所の照明に、如何に賑はしと雖も、種々の色電球を混用するとか、鈴蘭式多數式の外燈を數多く建設する場合に、其所が若し商業街なれば、各商店の電氣看板や飾窓等の裝飾等にまで、其の個性發揮の表現に多大の妨害をなす事になりませう(遊廊等はその限りに非ず)。今年の納涼會の如き催しに於て、通路は通路として、照明に心を用ひられし點は、流石に電氣的の意見のある所と思ひました。

多燈式のものが不經濟で事故多く、且つ其保守に困難なる事は今



更喋々を要せない所でありませう。

新八景の周囲には我が社ボールヘッドを建設せられましたが、(寫眞参照)若しそれが多燈式のものでありましたなれば、如何ばかり其風景に對し眼障りな煩しいものになりましたでしょうか。



新八景の周圍に立ちならぶボールヘッド

### (三) 噴水と噴霧

夏と水とは離し難いもので、殊に納涼と水とは影の形に添ふ如しとでも申しませうか、何處でも水が澤山に使用せられますのは、不

思議はありませんが、その水も亦暗黒裡に於ては、物凄ひ怪談材料になるばかりで、燈火との關係により始めて歌麿や、廣重の情緒ともなり、人に親まるゝので、此の關係上種々工夫せられますが、今年の日比谷納涼會に於ては、噴水も瀧も凡て霧として、之れに投光器により、五彩の光りを投射されたのであります。光りを反映せしむる爲めには非常に大規模の水、恰へばナイアガラのように、直接それに種々の光りを投じても頗る美しいものでありませうが、少々噴水的の水に光を投じて、其の被照面が餘りに小さい爲め充分の効果を困難いので、霧として被照面を擴大せられたのは誠に面白い御考案と感じました。勿論水の流れ落つる下部は塔内に着色電球が取附けられて、其れも種々の色に照らされてゐたのであります。噴霧的方法は使用水量等も比較的經濟の様に想像せられました、此方法は近來の新傾向と聞き及んでゐます。瀧の方は只單に五彩の光りにて、照射されてゐましたが、噴水の方は數分置きに、光りの色は變化する様に設計されて、一入觀者の眼を樂ませてゐたのであります。

瀧の近くには螢に摸して豆電球を使用せられたり、或は其他野外劇の照明に投光器が使用せられたり、或は又花壇を色々の光りで、照射する方法などもありましたが、以下省略いたします。私は毎年異つた方法によつて行はるゝ東京市主催納涼會の催が、年を追ふて發展せられん事を望んでやみません。

(以上)



# ギバ體溫計に關する懸賞文藝小品入選發表

本年七月十一日より七月末日まで、東京並に大阪の新聞紙上にて募集した、ギバ體溫計に關する文藝小品は投稿者非常に多數であつたが、これを本社に於て嚴選の結果、和歌、俳句、標語、童謡、短詩、川柳、都々逸の全體に對して、一名、二名、三名、三名五十名を入選としました。一、二等當選者の作品並に住所氏名及三等當選者五十名の住所氏名は、東京銀座出張所及大阪出張所飾窓内に掲示しました。一、二等の當選作品及作者の感想を次に掲げます。

## ギバ體溫計懸賞當選文藝小品



一 等 賞 一句(都々逸)

兵庫縣姫路市福居町

上 田 兵 衛

買ふて置きたい家庭の寶  
狂はぬギバの體溫計



二 等 賞 二句(順位不同)

信濃國湯田中溫泉湯元旅館

野 口 義 一

和 歌

病いえてギバ體溫計をなつかしむ  
とはに狂はぬ不破のガラスの

東京市芝區田村町二 はがき堂内

大 川 計 一

川 柳

全快の宴に狂はぬギバを賞め

三 等 賞 五十句 (順位不同)

俳 句 (二句)

福島縣中村町南新町

大 磯 金 甲

東京市日本橋區中洲四三號地

島 村 莊 次 郎

短 詩 (二句)

京都市上京區田中上柳町

松 原 智 吉

静岡縣盤田郡三川村見取

高 橋 繁 男

和 歌 (三句)

東京市麴町區飯田町二ノ五〇京華社内 村 山 光 治

東京市小石川區茗荷谷町九五 西村方 清 水 み ね

標語 (十七句)

京都市外伏見町北尼ヶ崎四九一

奈良井 かほろ

大阪市住吉區天王寺町三四一九

峯 赤 草

仙臺市米ヶ袋上丁二四

三 浦 三 郎

千葉縣山武郡豐成村御門

江 畑 春 海

埼玉縣北足立郡白子村字白子

富 澤 利 雄

京都市外伏見町北尼ヶ崎四九一

奈 良 井 薫

東京市外落合町下落合一六三五

尾 崎 泰 治 郎

姫路市西鹽町六十一

林 政 夫

大阪市住吉區天王寺町二三七

小 泉 重 太 郎

東京市京橋區鍋町一丁目九中央貿易内

大 關 文 雄

長野縣下伊那郡上飯田村丸山

小 澤 榮 一

東京府下落合町下落合一六三五

尾 崎 斯 水 魚

東京市麴町區飯田町二ノ五〇京華社内

村 山 光 治

東京市芝區西久保八幡町六

川 村 伸 一

福岡縣八幡市門田官舎二九

有 吉 ま さ 子

東京府下大井町瀧王寺四四三四

大 脇 爲 信

東京市芝區西久保八幡町六

川 村 伸 一

東京市芝區田村町二 はかき堂内

大 川 計 一

川 柳 (九句)

千葉縣夷隅郡國吉町國府臺

關 た き

尼ヶ崎市東難波字辻堂七二四

吉 野 佐 喜 夫

栃木縣栃木町萬町二丁目

中 田 紅 一

靜岡縣濱名郡富塚村兩光寺内

金 剛 宣 元

童 謠 (五句)

長野縣須坂町金原町

田 原 眞 人

福岡縣小倉市大門町

綿 森 敏 男

神奈川縣川崎市南河原七〇九

吉 田 秋 月

長野縣飯田町馬場町柴原相太郎方

野 村 緑

福島縣中村町新町

塚 本 光 紫 樓

福岡縣八幡市製鐵所門田官舎二九

服 部 ヒ ト エ

東京市外杉並町馬橋六三

落 合 健 男

福島縣中村町新町

塚 本 光 紫 樓

大阪市住吉區天王寺町三四一九

峯 赤 草

栃木縣栃木局私書函第三號

K N 生

都々逸 (十二句)

靜岡市吳服町 日蓄商會

立 花 駿 二

山梨縣甲府市橋町

雨 宮 芳 子

埼玉縣本庄町 山口吳服店內

香 山 光 一

佐賀縣東松浦郡唐津町櫻ノ馬場

峯 さ し 子

福島縣若松市三光町

六 合 泰 治 郎

福島縣中村町南新町通 池田モト方

桑 島 淳 眞

福島縣中村町南新町

高 梨 九 十 郎

東京市外下目黒九五六 後藤方

中 村 正 夫

門司市大里町北田畑町二

廣 本 悟

東京市外巢鴨町庚申塚二五七

坂 本 猛 猪

大阪市住吉區天王寺町三四一九

峯 赤 草

大阪市南區大道五丁目 波多則方

中 尾 貢



## 感想

上 田 兵 衛

家族の内に病弱の者がありますので、七年以前より毎日欠さず体温を計つて居るのであります。従而体温計も色々使用いたしましたが、何れも満足を得る事が出来ませんでしたから、外に何かよき品はなきかと、思つて居りました折柄、友人のじさんから、君体温計を買ふなら、マツダランプのギバ体温計を買ひ給へ。あれならば永く狂はぬ、正確な品であるこの事でありますので、早速買ひ求め、只今も使用中でありますが、實に理想的の体温計である事の確信を得ましたので、一同が感謝を捧げて居ります次第であります。過般御催しに相成ました懸賞募集の廣告を見まして、私共の如き未成品が應募致しなくても、入選するが如き自信も何もありませんでした、只承らく色々の体温計を使つて見ても、満足の出来なかつた私共が、正確なギバ体温計のあるを知り、早く買求めて家庭になくてならぬ療養上の資にして見たいと思つた其時の氣分を都々逸式に書き並べた迄であります。夫れが入選の榮を得ることは全く意外です。

## ギバ体温計を推稱せる作歌當時の感想

野 口 義 一

七月の末でした、私は汗と埃りにまみれて信濃の山々を歩いて居りました。雪の信濃路と云へば定めし、夏でも涼しいと思はれますが、大異ひで、山の障壁に圍まれて風の流通なさへぎり、とても武蔵野の様な廣々とした、風の吹き抜ける爽快な涼しさはありません。

一茶の句に「信濃路は山の重みの暑さかな」と云ふのは尤もだと思ひました。只ださうした山の重みの暑さを味はつた後で、彼の野尻の湖への碧玉の水に浴した時の氣持ちは、何物にもかへられないのであります。そして夕

方柏原の寒驛を過ぎて、其の夜遅く田中の湯にたどり着きました。

そこで急いで温泉に飛び込んで、汗の汚れを洗ひ落さし、始めて湯のやぐの「マツダランプ」の光りを美しいと眺めました、其の翌朝、霧晴れやらぬ山の湯に浸り乍ら湯殿の壁を見ますと、勞れ果てた様な字の書いてある古い「ほぐ」紙が張つてあるのを何氣なく讀みますと、「座敷から湯に飛び入るや初時雨 一茶」とあるので、此れが一茶の筆かと思ひました。後で宿の女將に聞いて見ますと、此家の先代は一茶唯一のバトロンであつた事や、其の他に一茶が紙を勿體ながつて「つけぎ」に俳句の推敲を記したことなど話され、終に一茶の書いた物を見せてやらうと云はれましたが、私は暑いからとあやまりました。さうして其日は一日湯の宿の二階で休んで、新聞などを見てをりますと、丁度東京から持つて來た日々新聞に貴社のギバ体温計の懸賞募集の廣告が載つて居るのが見つかりました。偶然一茶の湯に入つて、詩興の湧いてゐた私は、先づ俳句を考へましたが、ギバ体温計、フハ硝子、示度精確と讀み込みますと、十七字では字が足りなくて、中々巧くはなりません。狂ひなきギバ体温計と、フハ硝子で満員となり、此の外は乗せ切れません。それで此度は和歌を考へました。實は私はギバ体温計を一本購求して居りますが、幸に病氣に罹らないので使用せずに居りますと、友達に病人がありまして、外の体温計を數種使用しても、何れも示度が狂ひ不精確で困つて居りましたから、自分のを貸しました所、非常に完全に些の狂ひも生せず、それがために療法も誤まらずに早く全快しましたので、其の人は病氣がなほつてもギバ体温計に愛着の念轉々禁する能はずと云つて居ります。それで私は其の友達の氣分を借りて、まごめることとして出來たのが、此の和歌であります、要するにこれは寫生文で、少しの技巧も加はつて居りませんので、文藝上の價值は絶対に無いと思ひます。それに私自身が巧妙な感想などを歌ひ得る風雅な人物に出來て居りませんから、當選など云ふ事は夢

にだも思ひ及ばなかつたのであります。たと湯のやどのつれづれに自ら作り自ら慰めたもので、此れが多大の賞品を勝ち得たと云ふことは、全く望外の幸で深く貴社の御厚意に感謝するしだいであります。

## 感想

芝區川村町二 はかき堂内

大 川 計 一

體溫計！體溫計を中心とする看護治療が、如何に安全であるかは申すまでもなく、病勢の進退を記録する一の尺度とも存じます。平時に於ても一家の健康を保つ上に、一本は必ず座右に備へたいものでございます。併して其の體溫計の多くが不正確であつたり、スゲ狂つたりする事の不安は言外で、それがため取り返へしのつかぬ苦い経験を持つて居ります。

感度鋭敏に、正確な、永久性の、絶體に信頼の出来る、體溫計の出現は何よりも急務で、其の間の要求を遺憾なく満たされたのは、眞に「ギバ」あるのみと確信する次第で、人類保健の上からも絶大の感謝を表する次第でございます。

句は今日しも全快の祝宴に、病中日夜親しみ且つ信頼した體溫計の、永久なる正確さを一座の客人と共に讃へ、今日全快の喜びを見るは一に本器によるものと感謝し、爾後一家の健康のメーターとして愛用せんと云ふ、新マツダ燈下の明るい晴れ々とした氣分を詠んで見たのです。漫然詠みだした拙句が入選の光榮を得た事は、僥倖と申すより外なく、汗顔に耐えないのでございます。尙醜影を添へるのでございますが、私の性癖として從來撮つた事もなく、これからも撮うとは思ひませんから、何うかあしからず御願ひ申し上げます。

## マツダ新報十二月號豫告

マツダ新報十二月號は照明學校號として、弊社照明方面の各専門家の擔當部門についての、特選記事を滿載して、御目にかける積りでをります。其の内容の一端を申上ますと、大體次のやうであります。猶社外の方の感想も載せたいと存じてをります。

### 案内記

講義室の照明

關 重 廣

家庭照明

小 西 彦 麿

商店照明

小 西 彦 麿

寫場照明

黒澤涼之助

工場照明

杉 山 彌 一

街路照明

高品増之助

サイン

小 西 彦 麿

劇場照明

河 野 元 彦

屋内配線について

國房清二郎

照明學校の出來上るまで

關 重 廣





米國だより  
初秋のアトランチック、シティー

橋 弘 作

(紀行その九)

八月の末、シカゴ市の中央に位して居るワシントン公園の美しい湖畔に停んで居た時、名も知らぬ大木の葉は早綺麗に黄ばんで、そよ風の見舞ふ毎に、幾枚宛かの葉を静かに柔い芝生の上へ散らして居た、そして水の邊りには數羽の小鳥が冬の來るのも知らずに遊び戯れて居つた。

紐育市のリバーサイド、ドライブの黄昏時を、數へ切れぬ程の自動車を超スピードで飛んで居る。夕靄に包まれた大ハドソンにはバラ色の夕焼空が映じて、水面のみを明るく見せて居る河岸に沿ふて點火せられた街路燈の光りと、自動車のヘッドライトとが赤い夕空を背景にして居る爲めか非常に鮮かに見える。茂みが邪魔で見透しの効がなかつた。リバーサイド、ドライブも九月半の今日此頃は、

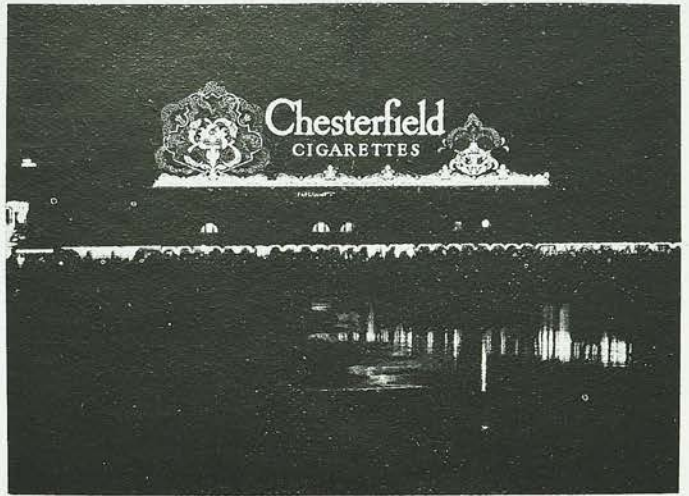
最早葉をスツカリと振落した樹立が出来たため、對岸のバリセード遊園地の電氣サインもお伽の國の壁氣樓のやうにツツキリと浮び出て、毎夜多くの客足を誘つて居る。

アトランチック、シティーは紐育から凡そ百五十哩程南下つた

米國第一の海水浴場である。此地は常時人口六萬程の都市であるが、夏期に於ては常に拾萬に近き外來の客を擁して居るので、非常な人氣の場所である。昨年度も今年度も米國電燈協會の總會並に電氣展覽會が此地で開催を見たのである。海濱には亘長三哩、巾十間を越す木組の歩道あり、此地にては、これをボード、ウォーク (Board Walk) と稱して居る。此木組歩道の水邊に面せし片側は開放せられ數丁置きに遊園波止場を海中遠く突出せしめ、各種の催し事は總て之等木組歩道或は遊園波止場に於て行はるのである。歩道の他の側は寸尺の間隙なく賣店が櫛匹し、數萬の客を惹いて居る。中にも G・E 會社、並にウエスティングハウス會社の常設陳列所の如きは、全米切つての好模範電氣器具の宣傳陳列所と云ふべきである。

其他電氣自動蓄音器、電氣自動寫場、或は電氣冷藏機等の宣傳に何れも數萬弗を投じて賑はして居る。

米國では毎年一回全米の美人選定會を此地で開催するのである。此催しは一九二一年から始められ、今日に及び益々盛大味を加へて居る。美人選定の方法は全米の各地から、其土地々々で選出せられた代表美人を、其選出區の姫の名の下に（つまりシカゴで選出せられた美人は「ミッシカゴ」の名の下に）此處に集合し、其數十名中最後の榮冠を得た者が其年に於ける米國姫、即ち「ミス、アメリカ」となるのである。



世界第一を以て誇るアトランチック、シティー海岸の電氣大サイン



光榮ある一九二七年度のミス・アメリカ

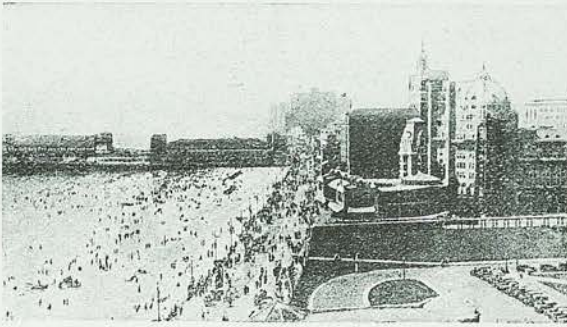
或地方の電氣團體の發行に係る年鑑の裏表紙に、斯んな事が書いてあつた。「働いてばかり居て遊ぶ事を知らぬ者は陰鬱病者となる」と。又眼を轉じて見るに米國全體の産業の合理化に對する、官民を擧げての奮闘振りは實に目ざましいものであるが、其半面に於ける全米國人の享樂に對する趣味も亦、偉大なるものである事を日々見る事が出来る。アトランチック、シティーに於ける全米美人選定會の催しも、確しかに其一端を示す好材料であらう。同地年中行事としての此催しはアトランチック、シティー、ページエントの名の下に、今年は九月六日から十日迄の五日間、毎日異つたプログラムの下に盛大に催しが行はれたのである。中でも九日の日は思ひ／＼に意匠を凝らした山車に、各地から集合した姫君達が一人宛に乗り込み、そして此行列がボード、ウォークを練り歩くのだから素晴らしい景氣である。紐育からは一時間毎に出る定期列車以外に、此日



に限り臨時列車迄出す騒ぎであつた。

行列は午後の二時半から始まり、最後の列の通り終つたのは丁度五時半頃であつた。此日の行列が終つて其夕方、一九二七年度の「ミス、アメリカ」の最後の審判が下されるのである。余は此美人連の行列を見ると云ふよりは寧ろ、各商業團體が如何に此機會を捕へて廣告に利用するかを見學する爲めに態々紐育から出かけて見た。

漫ろ初秋を偲ばせる快晴の九日、汽車は一時間五十哩に近い怪速力でレールの上を飛ぶ。常盤木の間に點在する眞紅の紅葉、早全く此地に秋の訪れを物語つて居た。



全米の人氣を集むるアトランチック、シティー

十二に區分せられた大行列の約半分は商工業團體の宣傳行列であり、何れも大金を投じた山車に、鈴成りに宣傳美人を乗せ華かな、そして平和の感じの中に各々廣告の目的を充分に果して居た。國旗と當地市長を先頭に戴いた數哩に亘る行列は十幾種の樂團を交へ、稍もすれば浮れ氣分に陥り易き此美人行列を意識ある享樂とせしめるに大なる成

功を納め得た。  
ロータリー俱樂部の行列もあつた。鐵道團體の行列もあつた。自

動車業團體の行列もあつた……大きく作り上げられた電氣アイロ  
ン、パーコレーター等を先頭に、發電所の大模型を引き出した此地  
も、亦、G・E、會社が  
引き出した電氣洗  
濯機の山車にも、  
愛嬌タツブリの姫  
御前の連中が乗込  
んで宣傳に暇まが  
なかつた。



アトランチック、シティー海水浴場の盛況

秋晴れの大西洋  
の水は靜かに、幾  
度も幾度も岸を見  
舞ひ、ボード、ウ  
ォークに並ぶボー  
ルヘッドの小波型グ  
ローブ片面に淡い  
夕燒空の名残が染  
められる頃、世界  
第一を以て誇つて  
居る無數の精巧極  
りない、大電氣サイ  
ンが、晝の寢りか  
ら急に起き上り、忙  
しげに働き出す、遊  
園波止場ボードウ  
ォークには眼映ゆき  
光の洪水が氾濫する  
のである。

(九月半紐育にて)

# 卓上電燈

村松梢壺

田中貢太郎君からマツダ新報へ隨筆を書けと命令されたのは確か去年のことだつた。滿一年間約束を忘れて居ると、去る十月の末に至つて  
 今月一杯に例の隨筆を書けと云はれた。

十月三十一日だつた。私は朝から雜誌の事務所の椅子に頑張つて集金だの支拂ひだのといふ、文士らしくもない應對で忙殺されてゐたが、  
 支拂ひ延期の云ひ譯をしてゐながらも、心の中では例の隨筆の材料を考へてゐた。何しろ今夜中に書いて明日の朝郵便で送る約束だから厭で  
 も應でも書かなければならない。

日本橋界隈の電燈の明りを見て何か書けといふ註文だ。電燈文學だ。私は昔頼まれて呉服店の廣告文や、待合の開業披露の引札の文案をや  
 つたりした時代もあつたがそれは易しかつた。世の中が進歩すると文士稼業も段々六ヶ敷くなる。

けれ共考へて見ると、電燈といふ題はいゝ題だ。明るくて華やかだ。街の燈火、劇場の燈火、カフェーの燈火……。現代文明は悉く皆電燈  
 の明りの中で育つてゐる。同じことでも行燈あんどんとなると滅切り陰氣になる。行燈は怪談趣味だ。田中貢太郎の世界だ。だが、行燈もなか／＼捨  
 て難い。行燈の明りで文を書く花魁の襟足は凄艶で歌舞伎劇の生命が宿つてゐる。昔の行燈の燈は女の醜さを隠して呉れたが、數百燭光の電  
 燈の下に臆面もなく並んでゐるカフェーの女給の顔は引き眉の痕歷々として、白粉荒れのあはれさを露骨に見せてゐる。美しきものは益々美  
 しく輝き、醜きものは夜も身の置き所の無くなるのが電燈時代の賜物だ。

などと考へてゐたところで命題の隨筆にはなりさうもないと氣が附いたから、私は其の晦日の借金取が一寸杜絶えた間を盗んで表へ飛び出  
 したが、私の事務所は今川橋の近所だから、其處からブラ／＼電車通を日本橋の方へ向つて歩いて行くと三越の前へ出た。もう午後の四時頃



だ。

晦日だと云ふけれども三越の大玄關は入る人と出る人とが押し合ひへし合ひして居る。私は暫時それを眺め乍ら、月末晦日だと云つても何  
も私のやうに借金と言ひ譯をしてゐる人間ばかりはゐない。三越へ来て買物をする人間がこんなに澤山ある處を見ると、世間は云ふ程不景氣  
ぢやないかも知れん。三土さんの緊縮政策に共鳴してゐたが間違ひだかも知れんなど詰らぬことを考へ乍らウインドウを見ると、陳列場一杯  
に舞臺が出来てゐて、其處に紅い衣裝を着た蘭陵王の人形が舞樂の形をして立つてゐる。此の頃中此處の屋上舞臺でやつた本物の舞樂の模型  
である。

私は舞樂は好きであるけれど共、三越の屋上でなんかやる舞樂を見る氣にはなれなかつた。神寂びた社殿、杉木立、其處にある古風な舞樂殿  
で見てこそ、此のクラシックの藝術の價值がある。三越のテツペンなんかへ舞樂を持つて來たつて、それこそ銀座通を提灯を提げて歩いてゐ  
るやうなもので馬鹿氣で居る。

人波に押されて大玄關に吸ひ込まれて行くと中も一杯の人だ。實に驚く可き人間だ。だが、私は買物をするやうな不量見は持つてゐないか  
ら氣樂なものだ。中央の噴水のある休憩場へ行くと椅子といふ椅子は全部人が占領してゐる。私は此處の構造は氣に適つてゐる。壯麗な大  
理石の圓柱がローマの宮殿を想像させる。天井からは幾つものギヤマンの瑤珞がさがつてゐて、其の中から太陽のやうな、或ひは月のやうな  
電燈の光が照し出されてゐる。全く美しいなと私は感心した。すると私の立つてゐる側の椅子に腰を掛けてゐる田舎者の爺さんが、なた豆煙管  
をボンと掌の上に吹いて火の玉を轉がし乍らバク／＼吸ひ始めた。邊りを見廻すと田舎の爺さん婆さま達ばかり憩んでゐる。成る程是れだか  
ら人間の多い割に錢は落ちないだらうなどとケチな量見で考へる。それよりも、三越を半日裡買ひ切つて人ツ子一人入れずに、此處の美しい  
ホールで上等の煙草を吸ひ乍ら、日本一の美人とたつた二人で古への羅馬の貴公子になつたやうな氣持で、戀を語る場面でも演じることを空  
想する方が愉快だらうが、惜しいことに私は少し年を取り過ぎた。

向うにアメリカ行きの人形が陳列してある。各府縣の人形が出てゐる。二尺から三尺位の丈の人形だが、どれもこれも眞黒い髪の毛を房々  
と冠つてゐる。

私は三越へ入つていゝことをした。此處は晝間でも電燈が點つてゐるばかりか、あらゆる電燈の應用が行はれてゐる。例へば階下の洋服の  
陳列場などは初めて私は氣がついたが、全體が玻璃の天井で、天井の上から光が一面にボーツと落ちてゐる。何んだか大掛りな氣持がす

る。それから私はあの階段の手摺のきぼし、のやうな處に附いてゐる燈火も風情があると思つた。近代の最も進んだ電燈の應用を私はお蔭で澤山覺えた。

呉服類の賣場を遠くから見ると面白い。就中、銘仙賣場の光景が奇妙だ。多くの女のお客達が反物を十反も二十反も抱え乍らまだ漁つて居るから、一體彼女はどれ丈澤山買ふ量見だらうと思つて見てゐると、其の中からたつた一反買ふのである。選擇の自由が是れ程寛大に徹底的に行はれてゐる場所は他に見られない。

五階六階の食堂も満員だ。私も土足で三越へ入つて來たのだから、多少金を費つて遣らなければ氣の毒だと考へたわけでもないが、食堂へ入つて三十五錢の煮しめ附きの赤飯を食つた。それから七階へ上つて行くと、其處で私は素晴らしい物を見た。

それは伊太利のマーブル美術工藝品の展覽會が開かれてゐるのだつた。大理石彫刻の置物や卓上電燈の種類が澤山出陳されてゐた。大部分は卓上電燈か或ひは玄關の裝飾にする電燈裝置の彫刻類だつた。實に美事な物が多かつた。鶯が大きな珠を背に載せてゐて、其の珠の中に電燈がともつてゐるのや、虎が寝てゐる側に椰子の木が一本立ち、青い椰子の葉がキャベチのやうにまるく廣がつてゐる中に電燈の仕込んであるのや、美人の像や、幼兒嬉戲の像や、千差萬別なれど夫れも趣向が凝らしてある。

布で頭を包んだ十八九の娘が、城趾のやうな石垣の一部に腰を掛けて兩手で顎を支え乍ら、遙かに夢見るやうな眼を走らせてゐる。其の傍らから柱が立ち、圓い球が附いて燈火が輝いてゐる。其の伊太利の娘の戀を現はした卓上電燈は價格が二百七十圓である。私は伊太利娘の美しい顔に恍惚となつて、いつ迄も其の前を去れなかつた。私は本當に其の卓上電燈が欲しかつた。

二千三百圓の正札が附いて居る大きな美人像の電燈臺は場中の尤物だつたが、既に賣約済になつてゐた。其の美人は腰部に布を巻き上半身は裸體だつた。赤い髪の毛が背中を覆つてゐる。肉體美と鈞整の美しさは工藝品とは云ひ乍ら美事な彫刻だつた。かういふ立派な電燈臺を飾る身分の人は一體誰人だらうと考へた。私もやがて大きな西洋風の住宅を建て、斯ういふ贅澤な調度を飾つて暮す自分になり度いと思つた。ソロ／＼階段を下りて一階迄降つて元の大玄關から往來へ流れ出ると、いつの間にか日が暮れて街にも電燈がついてゐた。電車や自動車が無闇に走つてゐる大通りの片端を、私は自分の事務所の方へ向つて歩き乍ら、頭の中では伊太利娘の卓上電燈のことばかり考へてゐた。さうするとあの卓上電燈を買ふより外に、私に取つては幸福は無いものゝやうに考へられて來た。



## 編輯後記に代へて

明治時代に生れた私共の腦裡を、暫時も離れることのないのは、明治時代の天長節であります。殆んど曇つたり雨降りとなつたことのない、十一月三日は、天長節日和として、又菊日和として一生を通じて忘れることができない日であります。

明治節が設定されたことは、明治年間に生れた日本人にまつては清らかな思ひ出に、明治天皇をしのびまつる、佳日を興へられたことになつたわけで、懐しくも喜ばしく思はれるのであります。今後永遠に三天祝日と共に、祝はるゝことを存じます。

『けふの佳き日は大君の、生れたまひし好き日なり』と高らかに歌つた小學校時代も夢さ過ぎて、頭には二毛を見るやうになりましたが、あの明治時代の天長節の崇高な感激は、思ひ出すに清々しいきわみであります。

明治節は明治時代を回想するによい機會であります。徳富蘇峰先生が昭和一新論に述べられたやうに、明治時代は第一に皇權を樹立し、第二に民權を樹立し、第三に國權を樹立したと申されたのも其の眞意を了解することが出来ます。

明治維新の大業は、明治大帝の御盛徳に由來する所であつて、明治天皇ありて始めて國民的統一を得、明治天皇ありて始めて國民的努力を得、明治天皇ありて始めて國民的活動をなし得たのであります。

明治時代は對外的と内國的とにかゝわらず、一切の事、悉く明治天皇によりて代表せられたと云つても決して、溢頌の浮辭ではないのであります。誠に、明治天皇は我が新日本の一大恩人にて在しますのであります。

明治大帝の崩御間もなく明治節設定の一大運動を起したのは、徳富蘇峰先生が國民新聞を通じて行つたのであります。この機が熟して十七年目の今年明治節の設定を見たのは、蘇峰先生のみの喜びでなく、願望のかつた日本國民の喜悅であります。

年を遂うて盛んならんとするのは、明治神宮競技であります。神宮競技は立派な國民體育祭であつて、ギリシャの昔のオリンピックにも優る規模の大きなものであります。明治節と明治神宮と明治神宮競技とは、明治天皇を追想敬慕する點に於て三身一體と申せませう。

本年の明治節は諒闇中でもありますので、ごくひそやかに取行はれたことを存じます。各所に於て最も有意義の奉祝の誠がいたされたこととせう。

本邦に於ける工學關係の十二學會が聯合組織せる工學會大會は、初めての明治節である十一月三日から五日間東京に於て舉行せられました。三日は東京帝國大學大講堂に於て、工學界の大元老古市公威博士の開會の辭に次で、商工文部兩大臣其他の祝辭あり、大河内博士の基本工業演説、十二の各學會の代表演説は、何れも本邦工業發展の實力内容を示すものであつて、會衆實に四千餘名に達する盛況でありました。

十一月四、五兩日は各學會とも部會に分かれて夫々講演會が開かれました。電氣關係の部會は電氣學會、照明學會、電信電話學會の三つを一塊として、參加會員數は一千四百名に達し、電氣の工業界に於ける實勢力の一斑を明確に示してなりました。

十一月六日、七日は新宿御苑を始め、工業關係の工場、研究所等の見学が盛んに行はれました。新

宿御苑を拜觀して、其の御質素な御休憩所などがかうがうしく拜しました。陸軍造兵廠東京工廠埼玉縣川口町の燃料研究所等の見学は、いづれも多大の裨益を得たのであります。

本號記事のうち『東京市主催納涼會電氣設備に就て』及『日比谷公園納涼會に遊びて』の二篇は時期が稍遅れたことは殊に申譯ない次第であります。來夏にかゝる催しをなさる方々の御參考までに、載せた次第でありますから、惡からず思召を願います。

マツダ新報十二月號は、本號四一頁の豫告に申上てなりましたやうに、『照明學校號』といいたします。遠地にあつて御來校のできがたい讀者諸賢に、此の特別號によつて照明學校の一斑を、御了解願ひ得れば、編輯者の光榮これに過ぎないのであります。

昭和二年十一月二十五日印刷  
昭和二年十一月二十八日發行

東京電氣株式會社  
編輯兼米山清三  
發行人

東京市京橋區銀座三丁目十七番地  
印刷人近藤萬藏

東京市京橋區銀座三丁目十七番地  
印刷所三間印刷所

電話京橋(局番56) 四番  
四番  
五番  
五番  
三番  
八番

神奈川縣川崎市

發行所

東京電氣株式會社